5月號

婦人運動

第5卷 第5號



大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可（毎月一日一回發行）昭和二年四月廿八日印刷納本 同二年五月五日發行——第五卷第五號

職業婦人社發行


吹けよ微風
薫れよ若葉
香味ゆかしい
チヨコレート
森永
ミルクチヨコレート
五錢・十錢・廿錢
Morinaga's
CHOCOLATE

婦人運動

第五巻——五月號——第五號

婦人運動

五月號



改造社新刊重版書

マルキシズムと國家主義
高畠素之著
定價壹圓
送料十八錢

資本論解説
カールカウツキ著
高畠素之譯
定價壹圓
送料十八錢

社會主義と進化論
高畠素之著
定價壹圓
送料十八錢

社會主義社會學
アーサーレヴヰス著
高畠素之譯
定價壹圓
送料十六錢

資本主義末期の研究
高橋龜吉著
定價貳圓五拾錢
送料二十二錢

勞働問題原理
渡邊一郎著
定價貳圓
送料二十二錢

唯物史觀
ブハリン原著
富士辰馬
横田千元譯
價三・五〇送料六

發行所　東京市麴町區内幸町　幸ビルデイング内　改造社　振替東京八四〇二

「産兒調節」の問題

奥むめお



平生ならば――こゝ四五年來の傾向として三、四、五月の卒業期の新聞の廣告面は、各婦人雜誌の競爭的な婦人職業記事で、私たちはいゝ加減腹を立てたり、眉をひそめたりさせられるのが常であるのに、今年の流行(?)は岸を換へて産兒調節問題に集注したやうである。各種婦人雜誌が産兒調節問題(その實、産兒調節の理論はもう云ひ盡くされてゐる。そして簡單である。而もその實行方法に亘る宣傳は一切禁止せられてゐるのであるからその方面の記事は○○○の連續以外には有る筈がないのである)それを爭うて取扱つて、從つて讀んでみれば靴をへだてゝ掻くやうな結局何でもない記事ばかりであるのに、その營利主義の目的を遂げるための具にしてゐる。

『彼等の喰物になるな。』

近頃私は、新聞や雜誌の廣告面をみながら産兒調節に關する徴發的な字面に出會すごとにいつもさう思ふ事である。雨後の筍のやうにあとから／＼と出來た産兒調節

に關する相談所の多くは、人の弱點につけ込んで利を積まうとする奸商の類と見てい丶。彼らの喰物になつてはならぬ。

先頃も、婦女界の批判會に招かれて行つたところ問題は例に依つて產兒調節の是非その他に關してのもの、日本女醫界の權威吉岡彌生氏が執拗に產兒制限反對論を持して孤軍奮闘してゐられた樣子は目ざましかつたが、その論據が非常に薄弱で、むしろ暴論であるのだからたまらない。

『貧乏人といふものは、側で思ふ程に子澤山である事が苦痛なものでないらしいですよ。それに、三人も四人も以上になれば、ずん／＼上の子が小さい子の面倒をみるので、子供たちは獨りでに育つてゆきます。先日朝日新聞社の新築披露に行つたときも、つく／＼さう思つたことですが、これだけ素晴しいものを造り上げた文明の力科學の力といふものも大變ですが、第一、それらの機械や工夫を組み合せてコツ／＼と積みあげた人間の働きの大きさはどうです。勞働者の力は實に大きいものですよ私は、勞働者はうんと子供を產んで、もつと／＼勞働する人を殖してくれなくつちや國家としても大變だと思ひます。』

――といふのである。自分の子供が大建築物造營の勞働に使役せられて、蟻のやうに這ひながら泥まみれになつて朝から日の暮れるまで働かねばならないのだとしたら、あ丶、勞働の力は偉大だと、世のどの親がわが子のそんな姿をながめながら喜ぶであらうか。

菊池寛氏は席上で『これだけ文明の世に生れて、われ／＼は自分の產む子供の數ぐらゐ意のま丶に調節出來るやうになりたいぢやないですか。』と云つてゐられたが全く同感である。不用意に子供を生むな、產みたい時にだけ產むこと、これが私たちの新夫婦道でなければならぬ

多產の及ぼす不幸については比較的一般からも考慮せられるやうであるけれども、私たちはそれ以前のもつと切實な現實問題に當面してゐる筈である。新婚後兩三年は子供を產まないやうにすること、これである。女にとつて、生活難の安全なる避難所であつた家庭といふものが、漸くその能力を失つて行つて、この頃では夫の經濟力だけに倚つて暮しを立て丶ゆくわけにはゆかないもの

が多くなつて來てゐる――かういふ世相にも拘らず、愚かな妻がなほ經濟的な安逸をその夫の收入に期待して結婚生活に入り、期待が破れたところから家庭不和のヒビが入つて不幸に落ちて行くのを私たちは尠なからずみてゐるのであるが――斯ういふ世の中に巣をかまへてゆかねばならぬ新婚の夫婦が忽ち子を抱くやうになるといふ事は、喜びである以上に重い負擔である。

安部磯雄氏は、新夫婦が多少なり經濟的な安定が得られるまで兩三年の間子を産まないでゐるといふ事は、又一面、お互ひの理解をその間に深める事に依つて結果は一層良好であらうとつねに云つてゐられる。廣く世の未婚の人たちにおくりたい言葉である。ひとり經濟的事情ばかりには依らない。新しい結婚生活の上に夫も妻も、おの／＼の生活を築きあげて行つてせめて兩三年、その基礎の成るのを待つてから、私たちは私たちの子供の誕生を心から喜びつゝ待つのでありたいと思ふ。

私たちは女として、母としての自分たちの社會的意義を思へば思ふほど、母性の權利として、義務として、從來のやうにたゞ種族を孵化する役目だけを機械的につゞけてゐるめんどりの愚を繰返してはならぬ。婦人は子供を産む度に生死の境を越えるのである。この宣告を婦人に强制する權利をもつものは男子でもない、國家でもない。かういふ苦しみを今受けやうか、受けまいかを決定するのは婦人自らの權限でなければならぬ。かつ、婦人が自由に決定するためにそれに必要な正しい知識を婦人自ら持たねばならぬのである。

社會は(そして國家も)無暗に子供を生む事を奬勵するが、私たちの生んだ子供の價値を果して認めてゐるかどうか。又、子供を生む私たち母の價値を果してどれだけに尊重してゐる？

私たちは母としての私たちの當然の權利を子供と共に社會に要求するそこにほんとうの婦人運動が在るのだと私は信じてゐると同時に、婦人と子供とを虐使すること現在のやうな今の社會に於ては、より一層無成算に子供を生むといふことは、母として特に批難されなければならない事である。

女教員に部分勤務制を採用するところの可否

この問題は本年女教員大會の重要議案の一つである。昨年の大會で贊否兩つの論者が激しく戰つてつひに一年間保留になつてゐたのである。諸家の回答に聞け

女教員が家庭と學校と二つの重荷を負うてゐるとき、女教師としても家婦及び母としても、兩つながらの責任を完うするといふ事は非常に困難であります。
　部分勤務制とはさういふ女教員を救ふために、必要と認める期間だけ、時間的にでも學科目の上にでも女教員が少しだけ勤務するといふ事にしたいといふ案であります。（帝國教育會の提出案）

らいてう

部分勤務制といふものの内容をよく知りませんから明確なお答は出來ませんが、母であるものが、中等教育又はそれ以上の教育ならともかく小學校の教員となる事はもと〳〵無理なことなので、理想から言へば決して望ましい事ではありませんが、母の生活に安定がない限り、母となつたからといつて、職業生活から退くことも實際は出來ないのですから、その間の矛盾の解決策として今日の場合部分勤務制の採用も止むを得ない必要でもあり、又要求でもあらうと思はれます。

吉岡　彌生

家庭を有する女教員の部分勤務制は大いに贊成します勿論學校側としても、二倍の人數を要する事にて不便もありませうが、一面家庭を整へる婦人は人情味厚く、殊て教育なる本旨を全ふする事が出來、又職業婦人をして外界に接觸さすれば各方面の常識にも富み、家政整理子女教養を完全ならしむるものと考へられますから速に實行されん事を望みます。

開地　敏子

部分勤務制に就いては、經濟問題をヌキにすれば、誰だつて反對する人はなからうと思ひます。只それが採用された曉に當局者が女教員を不便なものとして取扱ひはしないかと云ふことと、給料も時間制になりませうから收入の點で滿足が得られなくなることは考へなければならないでせう。

高島　米峰

原則として有夫の女性の小學教員たることに反對ですしかし生活問題として夫婦共稼ぎの已むなきものが、職業としての教員生活を營むことを氣の毒なる存在として承認しなければならぬことを悲しみます。
　しかし、教員が大切か兒童が大切かと言へば、言ふまでもなく兒童が大切です。部分勤務の制などといふ變則

な方法に依つて、果して兒童の教育が完全に行はれるでありませうか、初等教育と中等以上の教育とは別ですから。

北澤 種一

拜復左記の回答申し上升
女教員の部分勤務制の精神に贊成す。

理由

主婦として又母として働かねばならぬ婦人に學校に於ける完全なる一人前の勤務を要求することは不可能なり。
女教員に現在の如き公私二重の負擔を負はしむることは國民衛生上疑問なき能はず

梅山 一郎

女教員の部分勤務制は男子教員と能率上のハンデイキヤツプを益々つける故に、有夫教員には氣の毒であるが、贊成し難しとあつて昨年は否決になりましたが、男女の身心才能の相違人生に於ける任務の相違を認める婦人性の特種的立場より、職業の開拓も發達も考ふべきだと思ふ。私はこの制度は有夫教員を救ふ許りでなく、女教員の發達の上にも寧ろ必要だと思ひます。

澤柳政太郎

部分勤務制はよいと思ひます。理由は御示しの通りです。これは決して女子の位地を低くするものでないと思ひます。

清澤 洌

私の知つてゐる婦人が、小學校を教へてゐますが、二部教授なので、朝六時半に家を出て、家へ歸るのは五時から六時だとのことです。從つて夫の寢てゐる間に家を出て歸宅しても夫が居つたり居らなかつたりして、何日も話も出來ないと話してゐました。
部分勤務制といふやうなテクニカルなことは、素人の私には分りませんが、併し婦人の保健と家庭の保護に關する政策ならそしてそれが合理的なことなら、私にはどんな事でも贊成できるやうな氣が致します。

爲藤 五郎

素より可。
理由。人間の欲求の第一は自己の生存、次は優良な種族を遺すこと（生殖）。而して女には何より大事な生殖、子女の教育といふ任務を與へられて居ります。その重大任務を果たさせるために男が生産に從事するのが本體ではないでせうか。して見れば有夫の職業婦人には極力その負擔を輕くすべきだと信じます。

黑崎 悅子

御問合の件につき御回答申上げます。
女教員の部分勤務制を採用することの可否及その理由は如何
一項——可と致します。

理由

勿論職業的立場を打捨てゝ母性としての實務遂行する事が婦人の天賦性であり職責であらうと思ひます然し現今の當局が女教員の爲母性擁護の爲にかくまでに優遇せしむるや否やをあやぶむ一人です。

原田 實

お答

原則としては女敎員の　部分勤務制を可とする。たゞ今のところその實施上に困難が伴ふから俄かに採用出來ないのであつて、經費の増加と管理法の進歩とによつて必ず實施せしめればならぬ。

福島　四郎

部分勤務制に男敎員の反對するのならば解りますが、女敎員中に反對論者のあるのはわかりません。これは多分此制度を以て職業上女子の弱點を暴露するものゝ如く誤解してゐるのでせう。しかし私は、之を以て女子天賦の特權(妻母)に立脚して職業上の自由を認むる制度だと信じますから、女權擴張の意味にこそなれ、決して恥辱にはならないと思ひます。早く實現させてほしいものです。

山川　菊榮

職業と家庭生活との二重の負擔は、女敎員にかぎらず、すべての職業婦人の悩みでありますこの二つを兩立させるために、部分勤務制といふような要求が起るのは、今日の世の中としては尤も千萬なことであると考へます。然し實際問題としては、既婚女子の勤務に特にさういふ特典なり制限なりを附する結果は、その賃銀なり、職業的地位の上になり、不利な影響をもたらし、或は既婚女子を事實上その職業から排除する結果になる恐れはないものかと案じます。今日よりズツと變つた勞働者本位の社會なればいざ知らず、少くとも社會が今日の土臺の上に留まり今日の組織を維持してゐる限り、さういふ要求が實現されることは困難であるのみならず、やりようによつては、既婚女子のために不利な結果を齎らさぬとも限りません。

私は今日の場合、さういふ既婚女子特殊の、そして實現の困難な要求よりも、もつと一般的に女敎員の――又は全體としての職業婦人の――經濟的及び社會的地位を高める要求のために運動する方が、間接のようにみえて却つて直接に既婚女子をも有利な地位に導く道ではないかと考へます。

例へば男女賃銀率の平等、勞働時間の制限産前産後の保護等は全體としての職業婦人の地位を高めると同時に、直接にも、また間接にも、既婚女子の地位に有利な影響を與へるもので、全ての職業婦人が一致して持續せねばならぬ要求であります。私は、家庭生活をできるだけ簡易にし、女子が家族の衣食住のために煩はされる必要がなくなり、隨つて既婚女子の部分勤務制などといふ要求の起り得ぬ社會を希望してゐます。が、今日のやうに煩雜な家庭生活を控えて、同時に職業に從事する婦人の立場の苦しいことは、分りきつたことですから、部分勤務制の要求を出す方々の心持は十分理解もでき、同情もできるのですが、これは實現の可能性も少なく、婦人解放運動の大局から考へて、もつと有利な效果的な方法もあるかと思はれますから、私が女敎員なら賛成はいたしかねます。

下田　將美

問題は現に英國では昨年から大問題になつてあつたことであつて議論すれば双方にいくらでも云へる、しかし私は今日の日本の經濟状態から云ひ、敎育の程度から云つて部分勤務を本則とし、許してもいゝと思つてゐる、重大なる敎育を片手間でやることは不都

合だと云ひ、夫を持ち家庭をもてば專心これに從事出來る筈がないと云へばそれまでであるが、何事も女教員其人に掛る。部分勤務と雖も、眞劍になれぬ筈はないからである。

高群　逸枝

ある期間だけ部分勤務制を採用 することは必要でありませう。理由としては、今日の國家は子供を必要としてゐるし、今日の家族制度を單位に組織だつてゐるのであるから國家の道德は現に觀念的には悉く 母性を尊重してゐるし、家族制度を擁護してゐる。で私共は國家に對して、それほど母性及び家族制度が擁護さるべきであるならば、それを觀念的にでなく、實質的に擁護せよと突つ込むことができる。即ちかゝる意味における母性保護家庭婦人擁護の主張をである。これは辛辣な主張であるから、國家はそれを否定することができぬであるから この主張の線に國家に對して件の部分勤務制を要求 することになるであらう。けだし、かうした特殊的な制度の採用やその採用の意味する、既婚女教員の能率問題が、既婚女教員驅逐の一つの原因になるか否かは別問題である。どうせ今日では教育であれその他のあらゆる仕事、文學社會運動であれその能率上、獻身的な獨身婦人に勝味があることは云 ふまでもないことであるから。

坪川　冬村

部分勤務制を可とします。

理由

申上げるまでもなく 女性の人道には母として子女の教養の責務があつて 而かもこれは決して一家の些事ではなくて 國家へ對する重大な公事といつていいです。主婦として妻としてではありません。母性としての婦人の立場からいふので、妻對夫、主婦對主人のやうな一家の私事、男性との相對的のものでなくて母性の育兒の責務は實に重大です。

野口援太郎

女教員の部分勤務制は女教員を 保護する上に於て必要と存じます、女教員は一方その職務と共に家事を治め又母としての 務を盡さなくてはならないのです この三つのつと能を同時に果させんとすることは 到底不可めであります。 さりとて 勤務をやめることは家計上許さぬ場合があります こんな場合にはせめてその一部分の收入なりとも 確保する必要があると存じます 徒らに慾張つて家事を治め母としての重要な 務をなすと同時に貴重な兒童教育をも十分に 果さんとするが爲に却つてその身を損ひ或はその 公職を辱しむる如きことがあつ てはそれこそ最も愼むべきことであります 身體壯健で敏捷な婦人であるならば 或はこれらの責務を十分に盡すことも出來ませう 又育兒の手を省き又家政上のことを簡略になし 得る境遇にある女教員必しも 部分勤務をなすの必要のないのは無論のことであります。

宮　田　修

旅行中で御返事が遲れましたが、女教員の部分勤務制は現在に於ては 勿論必要の制度と存じます、然し斯うした制度を設けることは婦人にとつて根本的に有利であるか否か は更に愼重に考ふべき問題とも思はれます。

齋藤 綠

拜復過日御話申上げました通りです。可とする制度を設けるのに贊成です。然し相手の當局が採用しない事になれば 止得ませんいくら良いことも時によつて 持たれない事もありますから。

中村 れい

御等れの問題については 私は可の方に双手を擧げて贊成します。

理由：： 教育者として最も 價値あるは主婦であり母であり社會の凡てに 體驗ある者である事は今更こゝに喋々するを 要しません。然るに現在の制度ではその絶對價値を有する教育者の負擔が餘りに重過ぎます。それがため職業的立場と母性的立場とのその 何れの方面にも充分責任を全 うするを得ないのは當然かと考へます。ですから特殊の方即ち家庭内に充分なる理解者の有らるゝ 方或は教職の方面に於て幾分の 自由を許さるゝ方以外には其の何れかに 幾分の缺陷を生ずる事はこゝに言を勞する必要なく 事實が明かに證明して居ます（即ち女教員は種々な支障を生づるから困るとか 又子供を生まない女教員が欲しいとか言ふ言葉は 往々否絶えず耳にします）そして私自らよく〳〵體驗して現に家庭的に惠まれない 者の一人であります 又私の友人はそれと反對で家庭的には惠まれて居らるゝが職務の方面に於て 欠くる處があるとて任地の評判も惡しく 管理者の見込もよろしくありません。（而しこれはほんの一二の例を擧げた丈）それに私共は一個の人間として社會に立つて行く以上 家庭の主婦であらうが 人の子の母であらうが身體に隙のある 限り力に餘裕のある限り否其餘裕をこしらへて迄も各々適當な方面に 働かなければならない 現在社會の狀態ではありませんか、ですからその板狹みとなつて苦しんで居らるゝ方々の 澤山ある事を目擊して居ます。そして其結果は申す迄もなく當事者の苦しみのみに止らず、引いては家庭及び社會にまでも影響します。こゝに於て部分勤務制の必要を認めます。折角の御申出ですから常に思つて居ります一端を一寸かいて 見ましたが文筆の拙たない、かうした事になれないので。

今井 てつ

部分勤務制に大贊成です、部分キンムを望む女教員は短時間内に十分なる 活動の出來得る修養家、努力家、 責任觀のある女教員と存じます、昨年の大會で大論戰いたして人身攻擊まで受けてそんな 人の子がと笑はれましたが私の子は四年で高等學校へも パスするし、私とても決して〳〵人に指さゝるゝ様な事はせぬ責任觀があればこそ 大主張者です、目下全國の女教員の勤務振は學校に長時間居つて能率は 一向上らず、下の方でグズ〳〵して居る人の方が多いです、眞に學術の研究をして居る人が何人ありませう、この制に贊辭を上げぬ人の心には 減俸の憂のある人で、あはれな人と存じます、 人に遠慮せずこの制度があれば家庭（子女） 教育も全く出來て却つて國家に盡くす力は大と存じます、一家を完成してこそ國家の 健全が出來るのです、意見はコンナハガキには書きつくせません。

飯島　むめ

御申越の女教員の部分勤務制採用可否に付きましては去年私も全國女教員會の末席を汚した一員として皆様の立派な意見も伺ひましたし私としても多少考へも持つて居りました。要するに賛否の問題でしたが中には現在でさへ自分等女教員は大變弱い立場に居るそれをそんな勝手な制度を制定するなら吾々は倒々採用していたゞけなくなるだらうといふ様でした、何といふ卑屈な情ない考へ方でせう自らを葬つてるといふものです、吾々女教員が修養と研究して徳性を發揮して專心教鞭を取つたならそんなつまらぬ心配が入りませうか、それは倘更部分勤務制を制定して置いたら女教員の爲め教育界のためは勿論國家社會の益ではないでせうか、有夫と獨身そんな小さな問題ではありませんよろしく採用していたゞいたら、安心して職務忠實に一方家庭の母として完全に盡す事が出來、それあるが故に責任上研究も出來る。その意味に於いて私は可の方へ賛成いたしました、餘り文もなれて居りませんが失禮します何卒お許し下さいませ。

橋本　たか

御問合せの問題についての可否は一寸一口には申し上げられませんが

1. 女性の使命を尊び
2. 將來優良なる大和民族の創造を念とし
3. 國家永遠の興隆を願ひ
4. 人間生活の幸福を享けたい人

時代を解し強く自らを生かし自他（男女）の生活を樂しむものは反對する筈がありません。たゞ必然的におこる問題は

勤務年限の加算（恩給關係）

俸給の點（經濟上の立場）

以上二點について甚深の研究考察を重ねて悔いないやうにして頂きたい徒らに學校に永くゐて（勤勉のかげにかくれて）家庭生活をはかいしつゝある事を考慮しないものは時代に容れられなくなるでせう。

猶獨身者他日の主婦たり母性たる事を忘れてはゐないでせう。私は些小の感情を超越して、女性の使命を全うし人類生活の向上を圖り幸福を増進するために可決されてよいと信じます。

右簡筆乍らお答ひ致します。

花木チサヲ

早速御返事致さねばなりませんのにおくれましたことをおわびいたします。

おたづねの問題につきましては賛否兩つながら相當に強い理由の意見が出ることは誠に當然の事であると存じます、すべての問題が立場をかへて考へる時はみんなかうした論爭になることゝ思ひますから。而し此の問題につきましてはかうした制度を設けるといふのであつたらすべての女教員がこの制によらなくてはならぬといふのでもなく、活動の十分に出來る人は大いに男子と相ならんでもさしつかへないのです。又此の方法の嫌な校長さんは無理に部下を此の制によらせなくてもいい事なのです、だから私は思ひます、此制はそれほど大きな悪影響を決して及ぼすものではないと、そしてそれが出來たときは中にはずい分これを役立てゝ行ける人もあることを考へる時には實際問題としてやはり制を設ける方がよいと結論されるのです。

正體を暴露したる我が金融經濟

岡　莊　吉

一

不合理なものゝ存在は、すべて、いつか、つまづく。

現今、世界を通じて資本主義經濟組織はその頂點に達してゐると認むべきであるが、その樞軸はいふまでもなく金融經濟である。そこで、もし現今の資本主義經濟組織に內的破綻が釀されてゐるとすれば、その禍ひの焦點もまた金融經濟に集中すべきである。だから、日頃、表面の平靜を保つてゐても、何事か起つた際には、必ず金融の行詰りといふ現象となつて忽然としてあらはれる。その時になつて一般民衆はあわておどろく。おどろく頃にはもう手のつけようのない時が來てゐる。

二

第五十二議會に於て、內容を公表することなくして通過した震災手形法案は、實質上あのやうな解決法によらねばどうにもならぬ破目にまで行詰つて來てゐたものであつた。同時に臺灣銀行救濟案も、捨てゝはおけないものであつたことは明瞭である。これは不正、當不當は別として眼前の事實である。

この事實に對して、日本の支配階級と資本家と事業家及び金融業者等は、國民全體の利害如何を考へるよりも、目前の展開策を講ずることが急務中の急務であつたのである。

一たい現今の經濟組織そのものが民衆の生活に基礎を置いてゐない組織であるから、從つてそのつまづきに對する展開策といふものも、民衆の利害を考察の重點として思慮される

といふことになり得ないのである。彼等はたゞ展開のための展開を策するに過ぎないのだ。そこで、幸にどうにか展開の道が得られたら、それによつて或る期間はつゞけ得るのである。かくて、不合理は不合理を生んで、その禍根はます〳〵深くなりゆく。

三

今回暴露されたわが金融經濟の内的破綻は、その近因は大正七八年の戰時好況の際に起つてゐる。それが大正九年三四月の大暴落によつて表面に告示された。整理は實にこの時に斷行さるべきものであつた。更に直截にいへばあの七八年の好況時に於てこそ其の歩みを堅實にすべきであつたのだ。然るに斯の如き好運は國民も資本家階級も共に初經驗であり、從つて、無計畫無頓着にたゞ突進することのほかに何事も氣付かなかつた。さうして、九年に入つて大あわてにあわてゝしまつた。同時に如何に整理すべきかをも知らなかつた。たゞ盲目的なびほうが行はれたに過ぎなかつた。かくて同年十月一日を以て諸物價は大底をついて、爾來次第に平衡に歸しかけた。それは恰も流行病に際して死ぬるものは死んでしまひ、強くて生殘るものは生殘つたといふやうな成行で、一種の自然的經過を辿つたといふべき有様であつた。

四

そこへ大正十二年九月一日の大震災が起つた。これでもう事實上の致命傷を受けてゐたのである。あれだけの致命傷を受けながら、その生存方法に根本的立て直しをやらなかつたといふことは、あまりにも淺慮であつたのだ。すなはち日本の經濟組織、その中軸たる金融組織、延いて産業組織の上に徹底的の大改善を斷行すべきであつたのだ。天はそれを命じてゐたともいふべきであつた。

然るに、ブルジョア階級は勿論、プロレタリア階級自身も共に荏苒と日を過してしまつた。人心が緊張の極にあつた千歳の好機もかくして失はれてしまつた。その結果、禍根はます〳〵深くならざるを得なかつた。だが、かくして培はれたる禍根に對しては、當然、いつかその責任を負はねばならぬ日が來ることは餘りに明白なことであつた。

五

他面に、事業家は他に頓着なく企業を進めて行つた。殊に政治家との金錢上の醜關係によつて、或は金融を得、或は政府の保護を得る事業を遂行してゆくいはゆる政商の跳躍は、

計畫が大仕掛なだけ國民一般の利害に相反すること極めて多く、その禍害はます〳〵集積せざるを得なかつた。その好適例は震災手形となり臺灣銀行の固定貸付となつた。さうして政商の雄なるものとして鈴木商店が目ざゝるゝに至つた。

だが、單に震災手形だけでない。臺銀だけでない。鈴木だけでない。全國にわたつて、都會にも地方にも、大小の別こそあれ、大抵の銀行といふ銀行、事業家といふ事業家、資本家といふ資本家、政黨といふ政黨、それは田舍の小政治家に至るまで、程度の差こそあれ、皆、國民の利害に相反することをやつてゐるのだ。どの銀行にも恐らく解決のつかない固定貸付があるやうだ。もしこゝに嚴密に貸借對照表を吟味して見たら、さうしてその實質を精査して見たら、けだし思ひ半ばに過ぐるものが大部分であらうと斷言しても異論はなからう。

六

だが、政府者よ政黨者流よブルジョアの人々よ、諸君は安心してゐるがいゝ。國民の多數は極めて無神經である。諸君のなすがまゝにまかせて一言の苦情もいはない。彼等は官衙でゝも街頭でゝも常に諸君に敬意を表することを忘れない善良な民衆である。さうして、喜んで諸君の事實上の失敗や日常の浪費を補塡してゐるのだ。一億五千萬圓の震災手形も可決された。二億の補償法案も已むなきものと思つてゐた。それが樞府で政略的に否決を見たが、この次には更に五億圓の日銀損失補償法案となつて臨時議會に呈出され可決の運命だと見られてゐる。われらはこの無意義なる惡むべき財界の遣りくりに盲從することを喜んでゐるのだ。それほど善良な國民である。血と汗とで稼いだ國民の資産が斯の如き搾取を餘儀なくされるのに、甘んじて承認するほど溫順な國民なのだ。でも、いつまでもこのまゝでゐるであらうか。

七

われらをして思ふがまゝを率直に語らしめよ。

諸君の意圖に成つたこの經濟組織に於て內面的破綻を生じた場合には、何としても諸君自身に於て解決をつけるのが當然である。その解決策としては、震災手形でも臺銀救濟でもこれをシンチケート銀行團の共同努力によつて處理すべきである。すなはち、直にこれを日銀の損失補償に移さずして、銀行團に於て長年月にわたつて塡補すべきである。それがためには、株主配當など出來なくとも已むを得まい。株主とし

ても財界全般の恐怖すべき惡影響を考へる時、配當金位の自己犠牲は甘んずべきでなからうか。

少くともこれを國民全般の補償に移すよりは、業務を一にするといふ立場上の観念からしても、更に生活に困らぬといふ實際資産の程度から考へても銀行株主の共同責任に移す方が當然と認むべき理由が發見される。即ち階級意識から批判しても、主としてブルジョア階級自身が解決することが當然であると認むべきである。それはともあれ、無産階級が自己の負擔に移さるべき何等の理由も發見し得ないといふことは断言して憚らない。

今日の場合、日銀が援助することは已むを得ないとしても損失を補償すべきものでない。宜しく銀行團の保證の下に援助してやつて、損失ある場合は銀行團の責任とすべきである

この責任観念が銀行團になかつたがために事態は益々重大となつて來た。それもその筈だ、政黨員も銀行團も政府者も企業家もみな一つの團體であるから、彼等自身の立場を擁護することに於て彼等は極めて賢明であるのである。

だから、國民の大多數を占むる無産階級はこの點について眞劍に省察せねばならない。すなはち、政治上、經濟上、産業上、すべての中樞機關を動かす原動力は、われら無産階級自身の手に掌握しなければならない。さうして國民全體の利害は國民全體の意志によつて按排すべきである。

八

今日わが金融經濟の現状では、勅令をもつて支拂猶豫令を發布し、更に臨時議會を召集して日銀損失補償法を制定して五億圓の救濟資金をねん出しようとしてゐる。斯の如き非常事態はわが經濟史上未曾有のことである。從つて、天下の安田すら取付けに遭つたといふほど極度の人心不安を現出したのである。端的にいへば、わが金融經濟は今や白日の下にその内實の不健全さを暴露してしまつたのである。

だが、これは再び正常に復するであらう。正常とは彼等の是認する意味に於ける正常である。すなはち復舊である。この復舊によつて再びその不健全不合理を積み重ねてゆくであらう。さうして最後には、最後にこそは必ず根本的立て直しが行はれるに相違ない。

九

では、われらの考察してゐる根本的立て直し案の内容を一二述べておきたい。

第一に、將來の金融組織は產業組織と最も密接な關係に存在しなければならない。それは今日でもさうだといふ人があるかも知れないが、今日では產業と金融とに統一的中樞がない。

尤も、產業そのものにも統一的中樞がないから、この點も無論根本的に改善されねばならない。

第二に、金融系統そのものに統一的中樞をつくつて一國の金融は一つの血脈のうちに動かねばならない。今日の如く幾多の銀行が對立して各自競爭の形に營業してゐるやうでは、眞の全國民的希望に應ずるの機關たることは出來ない。極端にいへば一國家一銀行で充分だ。だから發達の道程として、合同が行はれることは最も望ましいことである。

第三、金融業者自身に於て、產業調査の大機關を持つことが極めて肝要である。さうなつてこそ、企業家にうまくやられる怖れがないのみならず、寧ろ企業そのものを指導するの位地に立ち、擁護以上に奬勵開發までも出來るだけの用意が整ふわけになる。

第四に、金融組織が社會的機能を發揮するためにのみ存在するやう仕組まれねばならない。即ち、社會全體の生活と一致する機能を有するやうになつて初めて合理的存在のものになるのである。

これらの數項はまことに概念的であるが、もし將來の銀行がこれら原則的要求にそむいて存在する限りは、いつまで經つても不合理の存在に相違なく、從つて、いつまでも過ちを重ね、禍を民衆に及ぼさないわけには行かないのである。（一九二七、四、二六）

銀行へ預金

◇受持先生が時事問題として銀行の話をした、尋常五年生の或一人が、先生に「銀行へ金を預けると利息を貰へるのはどう云ふ譯ですか」「預けた方が銀行へ預かり賃を出すのが本當だと思ひますが」と質問した。

◇そこで先生はなぜ君は「預けた人が銀行に預かり賃を出すのが當り前だと思ひますか」と尋ねた、此の質問に對して生徒は銀行へ金を預けるのは家に置くと盜まれたり、紛失したりする心配がある。故に預金者の方から銀行に預かり料を支拂ふべきものだと云ふ趣旨の答へを明瞭に述べた。

◇然るに先生は「銀行は預かつた金を外に利用してお金儲けをすることが出來るから、預け主に利息を拂ふのでこれが本當です」と簡單に答へただけで、折角子供の頭に浮んだ貴い疑問に就て納得するだけの説明をしてやらなかつた。

家庭の囚人より

今度こそきつと上ります、と云ふおたよりを何遍くりかへしたかしりません內に二度目の春も逝つてしまひました。お笑ひ下さい家庭に入つてからの私はほんとに意氣地なしになつてしまひました。何んて、ボヤ〱してゐる私なんだろうといつもお消息を聞いたり雜誌を頂いたりした時いつも自分で反省いたします。それでゐて、やつぱりその日〱の仕事におはれて暮れてしまひます。せめて自分の心に思つてゐる事を書いてお送りしたい、お話をしたいと思つてペンをとる事もあるのですけれど、書きつけないとペンまで思ふやうに走つてくれません。

結婚前に理解のある夫を求め求めて自分は、結婚したつて自分の生活をちやんと家庭生活の中にも見出してゆかう本も讀んで、人にもあつて自分を育てゝゆかう、といろ〱夢想して喜んで飛込んだ結婚生活といふものがこんなものであつていゝのでせうか。妻とは何と無意義な勞働者なんでせう。何といふ小煩い人と人との關係でせう。

私は、考へる度に泣けて〱仕様がありません。こんな檻みたいな生活から飛出たい、もう一度身も心も輕い獨り者になつて、しつかりと私自身の生活を生かしてみたい。たとえ二十圓でも三十圓でも、定收入をもつて自分で働いてゐる人が羨しうございます。

かうして書いてゐます間にも、夫がお茶を持つて來いと云ひます。××さんへ時候見舞を出したか、と話しかけて來ます。今日はカラアが汚れてゐたぞ、と叱つて來ます。そればかりではありません。子供が代る〱ぐづるので、何度そのために立つてゆかねばならぬかしれません。ほんとうにこんな乳呑子を抱えて、何が出來ませう。とぼしい夫の收入が私の唯一つの柱でございます。私は夫につかへてゆかねばならないのです。なさけないなあと、思つたところで仕方がないのでございます。こんな生活をつゞけてゐて馬鹿にならなくてどうしませう。

私は今、生れて半年も經たぬ二つの子と、未だ滿二才にならぬ子と、二人抱えて手も足も出ないでゐます。(實際產兒制限の必要を痛感してゐます、こんなに生むんぢやなかつたのに、と後悔してもあとの祭りです、毎日私は疲れてしまひます。)

外に出て元氣に働いてゐられる人が羨しい。私だつて婦人の會にも出ていろ〱の人の意見を聞かせてほしいと思ひます。先日も××の會にだけは出たいと思つて夫も氣嫌よく許してゐてくれましたのに、あの日役所から歸つたら大變不機嫌であたりちらしますので、とう〱出られませんでした。情けない自分の身を泣きましたわ。

―松本かつ子―

若い支那

佐々井一晃

——奥むめおさんが、卒然として、支那はどう動くのでせう？わたしどもの之に對する態度はどうあるべきでせう？……この二問を浴せられたで、いさゝか面喰つたがわたしも卒然のお答へを以て責をふさぐ——

一

全世界の諸民族は、その永い社會生活の間に、彼等自身の社會組織なり、生活様式なり、事物に對する批判考察なりの上に一定の固定的傾向を生じて、その社會的習慣狀態のうちに生存してゐる。これは社會としての極めて強い力であるが同時にこの固定的傾向が社會の進化をさまたげる力ともなるので、個人的に見て刻々に生れて來る若い生命が、在來の社會狀勢にとらはれない新しい頭腦と細胞の活力によつてこの固定傾向に反逆を試みる、かくて保守的傾向と進歩的傾向の對立はいつの時代にも存在してゐる現象であるが、大觀して社會全體の現象としてこの兩傾向の對立が顯著なる闘爭を示す時代と、それほどでもない時代とがある。すなはち一種のリズムになつてゐる。

ところが、全世界は、今、そのリズムの高潮に達してゐる時代で、これは過去百三十五六年來の現象である。意識の流れから云へば、フランス革命を生んだ精神が、今に益々旺盛に活躍してゐるのである。そこへ物質文化の發達の上にいはゆる機械革命が達成されつゝある時代だから、これに伴ふ産業革命なり社會革命が漸次に完成されんとしてゐるので、この大きな世界的の潮は、何人が止めんとしても防ぎ得るものではないのだ。

この意味から云へば、全世界は今若返つてゐるのである。どこの國にも若い流れがみなぎつてゐる。たゞ、文化が古くて、保守的傾向の强かつた國ほど、この若返り運動が猛烈にならざるを得ないのである。これを六十年來の日本に見よ、ロシアに見よ、更に現今の支那に見よ！

二

全世界が一つの呼吸に生きてゐる現代に於ては、如何なる國も、自らの國內事情と、對外事情の二つの要因によつて動いてゐる。それが文化の歩みに於ておくれてゐる國ほど、內にあつては自己の進化に對する努力と、外に對しては、外からの不當な壓迫に對する對抗とのために二重のもがきを要するのである。日本も、ペルリ來朝の頃から實に云ふべからざる苦闘をつゞけて來た。今もなほ續けてゐる。

日本が合理的生活に立還らうとする自己努力と同時に、不平等條約に抵抗した苦しい努力は、われらの記憶に新たなことで、今日なほ人種的不平等の待遇には深刻なる痛苦を感じてゐるところである。

支那は今、現にその苦闘の眞最中である。この隣邦民族の苦闘に對しては、われらは極めて眞摯なる敬意と、無限の同情と、出來る限りの援助とを忘れてはならない。

三

人類の歩みは、既に少くも五十萬年の歳月を歩いて來てゐる。さうして、將來の道程は更に遙に遠いものでなくてはならぬ。だから人間社會に起伏する刻々の現象を觀察するのにこれを目前の小起伏にのみとらはれてその實相を見ぞこなつてはならない。

支那今日の社會事象の如きも、その實相を明察することが肝要である。古來百年の大計といふ言葉があるが、百年位で

は短かすぎる。少くも千年の大計といふ言葉を必要とする。すなはち、眼界を思ひきり大きく、いはゆる大所高所よりの達觀が國策樹立の基礎をなさなくてはならぬ。

人類が合理的生存への努力こそは、その歩みの大道である然るにこの歴史上の大道を忘れて、各國民ともに近眼にも自己の立場にのみ卽しすぎてゐる。そこに彼等の帝國主義が生れてゐる。だが、國内の經營に資本主義の經濟組織が破綻を生みつゝあると同様に、同じ原理の上に立つ帝國主義の國際政策もその無力を暴露しつゝある。支那に於ける英國最近のさまを見るがいゝ。

四

支那は世界の謎だと世界の人々はいふ。だが、明治維新前後の日本は、世界の謎ではなかつたらうか。いや、今でも、日本と日本人の眞相はまだわかつてゐない。最近のロンドンタイムスに、昭和といふ年號は武士道から出てゐると書いたといふことを桑木博士が傳へてゐられる。私はその論文を見てゐないが、桑木博士でない人が云つたのなら、そのいふ人を一寸疑つて見たくなるほどの滑稽さである。世界の權威で

あるロンドンタイムスが、東亞の盟主を以て自認するわが大日本帝國のこの意義ある年號に對してすら如何に彼等の無智であるかを暴露してゐるのではないか。日本人が短識淺慮のヤンキーに排斥される位のことはあたりまへだ。

だから、支那が今に世界の謎の國といはれたつて不思議はない。支那自身も、いろ〳〵のまごつきをやるのも無理はない。われらの父兄だつて、われら自身だつて、今にまごついてゐるではないか。

何だつて、やつて見ねば判るものでない。やらないものにはまごつきも失敗もない、だが、やらないものには進化もなく生命もない。信ずるところに向つて直進する奴がえらいのだ！　尤も靜察の要はある、沈思の要はある。けれども實行が伴つて初めて意義が生ずる。

支那の現狀だつて、立場をかへて、われら自身が支那人であつて見るとする。どうして現今のやうな不平等條約で甘んじてゐられる？　訓練あり統一のある軍隊とてはない彼等が現今のやうなストライキとかボイコットとか暴徒化する民衆運動とか…そんな風の作戰に出でゝも、對等の條約を結びたいと考へることにどれほどの無理があらう？　彼等の非理を

行ふ意識の底には、相手方の非理を認めてゐるといふ潜在的の流れがあることを想はねばならない。

要するにこのリズムの高潮は、若い支那の懸命の努力であることを認識せねばならぬ。時々の失敗位は大目に見てやらねばならぬ。

五

だから衷心からの親切をもつて彼等を指導してやらねばならぬ。若い彼等の努力に對し出來るだけ力を貸してやらねばならぬ。若い支那を最もよく理解してゐる二つの若い力がある、一つは、若いロシアであり、も一つは日本のうちの若い分子である。これについでは、頭を上げようとしてゐる若いインドや若い南洋諸民族は共に力をあはせようとしてゐる！これは世界の大勢である。文化の普及と、民族解放の水平化運動は、何人も防ぎ得ない大勢である。この大勢に逆行せんと企つるものは必ず亡ぶ。

六

わたしは、わづかばかり支那を旅行して見た。到るところで、如何に彼等が純朴の民であるかを見た。あの廣々とした大平原に、默々として朝早くからおそくまで働いてゐる農夫の姿に見よ、彼等がどれほど文字を知らなくとも文化を知らなくとも、彼等の生命には害はれざる自然がみなぎつてゐるまた營々として、むしろ屈辱をも意としない働きぶりを以て物資の交易に動いてゐる商人に見よ、彼等の商業道徳は世界に範を垂れてゐるではないか。海外に發展してゐる一千二百萬の支那人が到るところ如如に堅實な地歩を占めてゐるかを見るがいゝ。わたしは昨秋の旅行に於ても、邦人の店で物を買ふより、支那人の店で買ふことにどれほどよく商品に對する説明を得たか、快く貰ひ得たか、商品の充實を認めたか、その一擧一動に切實味があふれてゐるのを見た。彼等は腹の底から眞切である

同じ現象を、わたしは滿鐵の汽車の中と東支鐵道の支線及び本線に於ても味つた。彼等が人前をはばからず臭い唾を吐くやうな不作法な習慣を未だに捨て得ないとしても、それに勝るやさしさ、親切さ、純朴ななつかしさは、すべての不快を打消して充分だ。要するに、本質的に彼等は理性のある立派な高等民族である。將來は見事に發達すべき民族である。

七

現今の支那が國家的に無力であるにかゝはらず、外交上に駄々をこねるといふ人が多い。それはその通りであるが、それだから彈壓的にやつつけなくてはならぬといふ人があらばわたしは斷じて反對する。思つて見るがいゝ彼等にはさうするよりほかに道はないのだ。列强と支那との關係は、どちらが我儘を云つてゐるのか、どちらが不合理に搾取してゐるのか、支那人は立派な一人前の人間だ、理性のある人間だ、彼等がこの非理の待遇を認知しない筈はないのだ、泣く〳〵從つて來たに過ぎないのだから、駄々はいくらこねたつて當然である。

列强は知つてゐる、いつだつて、最後には彈壓を加へれば彼等をして默從せしめ得ると。「彼等は他人の同情と寛容とを利用して、まるで無茶な行動をしてゐる」といふやうなことをいふ人があるが、無茶でもしなければ展開がない立場に置かれたら、誰でも無茶をするにきまつてゐる。列强は、支那をしてさういふ立場におし込めてゐるのだ。個人としても國家としても我儘は先進文明國が行つてゐる。

八

だから、若い支那に堅實な道を歩いてくれと注文すると同時に、むしろ、それよりも先に自ら反省して、自分の方に少しでも非理を行つてはゐないかといふことを考へて、心の底から、徹底的に、和衷協同の道を歩かねばならない。眞の兄弟として、地球の上に、共に生きる道を切り開かねばならない。

これは、われら若い日本の魂から發する聲である。

「一九二七、四、二四」

三民主義發生の事情

吉野作造

或る讀者から、支那の國民黨で三民主義といふことを說くさうだが如何いふことかと質ねて來た。次に簡單なお答をする。

三民主義の首唱者は孫文先生である。我が日本では寧ろ孫逸仙と云ふ名で知られて居るやうだ、此人が支那の革命運動の第一元老であつたことは云ふまでもない。而して何の爲に革命を必要とするかと云ふに、三つの主義の實現の爲であるとて、彼れは民族主義、民權主義並に民生主義を擧げて居る民族主義とは滿人の政治的支配（淸朝）より漢民族を解放せんとするを云ひ、民權主義とは君主專制の政體を斥け民主共和の樣式を確立せんとするを云ひ、民生主義は大體今日の社會主義に當るものだと云ふ。之を一言にして云へば、淸朝を亡ぼして漢人種の獨立を恢復し、其上で民主共和の政治形式の下に社會主義的國家を建設せんことを目的とするものに外ならぬ。之を三つに分けて民族、民權、民生と云つた所から一括して三民主義と云ふ總名が作り上げられたのである。而して今日尙ほ支那の國民黨がこの三民主義を云々するのは、孫文を中心勢力として出來た政黨であるが故であらう。直接に孫の衣鉢をつぐ者の間に於て三民主義の文字が一種の金科玉條たるは言ふまでもない。

但しこの三民主義が今仍ほ嚴格に支那革命靑年の奉ずる所たりやには多少の疑がある。少くとも民族主義即ち排滿思想だけは今日の國民黨員の甚しく意に介する所ではあるまいと思ふ。淸朝の壓制に苦んで居つた時代にこそ之が切實な要求であつたらうが、中華民國となつた今日では滿人などは最早どうでもいゝのである、併し之は革命黨結成の當初はなか

なか八釜しい問題であつたと聞いて居る。之に付ては次の樣な歷史もある。

× × × ×

今日の國民黨の前身は明治三十八年わが東京で發會式を擧げた中國革命黨同盟會（之が支那靑年革命黨の最初のものである）であるが、この同盟會成立の當初、發企者が加盟宣誓の辭を協議せる際その條項に就て大議論があつたさうだ。人も知る如くこの秘密結社は當時亡命中の黃興と久し振りで西洋の客遊から歸つた孫逸仙との提携を緣とし、日本留學の多數靑年を糾合して出來たもので、孫文はその經歷と聲望とに依り擧げられて頭領とはなつたけれど、多數の黨員は固より直接に彼の誘掖薫陶を受けたものではない。然らば如何の動機から彼等靑年は革命主義者になつたのかと云ふに、主としては時勢の影響である。彼等は北淸事變後本國政府に對する諸外國の强烈なる壓迫を見せ付けられた。やがて又歷史を回想して列强の大陸侵掠の跡を振りかへつても見た。而して身親しく外國の土を踏むに及んでは其處では官民共にそれ〴〵國運の隆興に努めて居るのを見た。是に於て彼等の若い血は沸騰せずには居れぬ。轉じてまた故國官場の狀況を見るとその腐敗墮落の甚しき、自らまた痛憤の激情に燃えざるを得ない。斯くして遂に革命主義者になつたとすれば、彼等の根本思想が第一に滿人政治に對する怨恨であり、次に排外的國家主義であることに何の不思議もない。況んや漢人間に於ける排滿思想は傳統的に由來頗る深甚なるものあるに於てをや。而して前述の加盟宣誓の辭の協議に際して大紛議のあつたのは畢竟この點に發源するものである。

協議の結果きまつた宣誓の辭は次の如きものであつた。

當天發誓
驅除韃虜
恢復中華
建立民國
平均地權
矢信矢忠有始有卒如或渝此神人共殛

即ち實行の目的は四ケ條になつて居るが、併し第一と第二は滿人を斥けて漢人の支配を恢復するといふのであるから、一括して所謂民族主義に當ると謂つて可い。第三が民權主義で第四が民生主義に當ることは申すまでもない。然らば之は正に孫文の持論たる三民主義の表明ではないか。現に當時の

秘密結社の幹部たりし人も皆斯く解してゐる様である。

所が斯く決定するまでには實に大變な紛擾があつたのである。そは何故かと云ふに、大多數の青年學生は、第一第二だけで澤山だ、第三第四は餘計のものだと主張したからである。我々は滿人の支配を脱せんが爲にこそ骨身を碎くのである。而して滿人を斥けさへすればいゝのである。その先きの事にまで責任を負ひたくはない。否、餘計な目的を揭ぐることは却て主たる目的の遂行の邪魔になる、とさへ考へたのである。孫文は排滿思想に於て固より決して彼等青年に劣るものではないが、一歩を進めて彼はその先きのことまでを考へて居た。滿人は飽くまで排斥するが、排斥に成功してその先きをどうするか。斥けさへすればいゝと云ふので彼れは滿足することが出來なかつた。そこで彼れは彼れの提案にかゝる第三第四の條項を固持して讓らうとしない。滿場一致の反對に抵抗して極力自說の貫徹に力めたのであつた。その結果やッとの事で孫文の主張が通つたので、反對論者の中には、陰で孫文の頑迷執拗を口きたなく罵倒するものが多かつたと云ふ。併し孫文からいへば、あの第三第四を入れなくては、それは取りも直さず佛作つて魂を入れざるものである。是れ彼れが群議を排して極力自說を押し通すを必要とした所以である。

× × × ×

この爭は或る意味に於て今日我國の社會運動家の爭に似て居る。當時の支那の青年は、あの憎い滿人を排斥しさへすればいゝ、百弊の源は滿人政治にある、之が無くなれば跡はきッとよくなるに違ひない、今から先きの事まで心配する必要はないと考へたのである。是れ正に今日我國左傾派の態度ではないか。百弊の源は社會組織に在る、之を變へさへすれば跡は必ずよくなる、凡ゆる手段を以て社會組織を改造するが先決の急務だ、何よりも先きに正面の敵の資本家を斃せ、餘計な事は考へるなと云ふ。之に對して右傾派は主張する、資本家の排斥もとより必要だ、併し本當の仕事はその先きに在る、社會組織の改造は、要するにその先きの本當の仕事の爲にその途を平坦にする豫備的行動に過ぎぬ、いづれにしても先きの本當の仕事の何であるかは我々の忘る可からざる所であると。是れが丁度孫文の三民主義の全體としての主張に適應するものである。於之觀之、孫逸仙は支那革命運動に於ては當初より確乎たる理想主義者であつたのだ。こゝに孫文の偉い所がある。而して當初の盲目的左傾革命家の殆ど滿場一致の希望を排して見事に自說を押し通したその不拔の確信に至つては、實に近代稀に見る偉人なりと謂はざるを得ぬ

と思ふ。

× × × ×

支那の左傾的革命主義は永く續かなかつた。革命の成功の曙光を見ると共に、青年革命黨員は之を弊履の如く一擲してしまつたのである。こゝにも我々は、左傾的態度といふものは反對勢力の强い間だけ存在し得るものに過ぎぬと云ふ證據を見る。但し私はそれだから下らないものだなどと云ふ積りは毛頭ない。たゞその存在に絕對的價値あるかの如く考ふる妄想をばつとめて警戒して置きたいと考ふるのである。左傾的の議論は昨今我國でもなか〱盛である。中國革命同盟會成立當時あれ程優勢であつた排滿一點張の主張が、明治四十五年の秋第一革命の勃發と共に影も形もなく消え去つたのを思ふと、今日我國の左傾論の如きも、風の吹く間威勢よく廻る風車の樣なものだと考へればまづ間違ひはなからうと思ふ。

明治四十五年秋武昌起義を手初めに所謂第一革命の大あしが起つた。やがて滿人朝廷が一溜りもなく衰亡したまでの經緯は、改めて說くまでもなからう。さて斯うなると革命青年は、今更滿人を仇讎の如く窘めるのは大人氣ないと考ふるやうになる。斯うした思想の變化から新に案出された標語は、五族共和といふ言葉である。卽ち支那帝國を組織する漢、滿、回、蒙、藏の五種族相協和すべしといふのである。だからそ

の後も依然として三民主義を唱ふるものあらば、少くともその第一の民族主義は當初の主張とは全く意味の違つたものでなければならぬ。それがどう違つたかは別に說くとして、今日は依然この標語を用ひはするも、主として力瘤を入れる所は最早民族主義に非ず、民權、民主の二主義に在ることは深く問はずして明であらう。

中國革命同盟會と國民黨との關係、國民黨の最近までの歷史、その政治行動に於ける三民主義の適用、三民主義に關する孫文の思想の發展、最近國民黨の政治理想等、述べて見たい項目は澤山あるが、餘り長くなるから之は他日に讓らう。只玆に一言したいのは、當初左傾的青年の多數は滿人を排斥しさへすれば跡はどうにでもなると考へたが、排滿の目的を完全に達成した今日になつて見ると、幾多の志士が心血を注いで居るに拘らず、民權、民生二主義の實現は前途なほ頗る遠いことである。是れ社會の表面的組織を改革しただけで萬事終るものではなく、常にその根本に於て魂の問題の横はるものあることを語るものではないか。私共は我國の社會問題を取扱ふとき、常に忘れてならぬと思ふことは、もつと理想主義的立場に眞面目な尊敬を拂ふことである。支那の三民主義の沿革を考へて圖らず復たこの感を深うせずには居れぬ。

（これは、曾つて婦人公論誌上にのせられたのですが現在の支那事情を知るのに參考としてよいと思ふのでのせました）

政治の經濟的基礎（三）

――我國無產政黨の將來――

辰巳經世

ロ　我國無產政黨の成立とその將來

勞働のこの支配力が、資本主義が高度の發達を示せる國に於て程大であるといふことは、右に述べた事實の當然の結果である。例へば世界に於ける資本主義の最先進國である英國では、既に早くから選擧に關する金力の制限が徹廢せられ、勞働黨が單獨で政權を獲得したといふやうな歷史もあるが、その發達の比較的後れてゐる我國では近頃漸く所謂普通選擧が實施されさうになり、最近漸く無產勞働階級に依る政黨の成立を見るに至つたに過ぎないのである。

我國に於ける選擧法の改正が、ブルジョア議會に於てブルジョア政治家に依りなされたことは事實であるが、それは決して彼らの慈悲心や正義の觀念からさうされたのではない。我國に於ける勞働の力が、勞働組合の發達產業鬪爭の反復等を通じて、政治的支配の上に反映したのに過ぎないのである。だが我國の勞働の產業上に於ける支配力は未だ極めて微力であり、その限りに於て政治上の支配力も未だ極めて微々たることは事實である。無

産階級自身の裡に見る陣營の分裂左右兩翼の抗爭の如く、吾々の眼前に或種の悲觀的な暗影を投ずる事實もないではない。それにも拘らず、今日までに經過し來つた發達の過程と、先進國に於て既に示されてゐる實際の歷史と、更に全世界に漲つてゐる新しい機運とは、我國無產階級政黨の運命と、次では我國全體としての政治現象の發展の方向とを、吾々が豫斷するに當つての準據としては充分である。

無產階級政黨の分裂に關しては、他日他の題目の下に書く機會があると思ふが、こゝにはたゞ私自身一定の理由の下に相當樂觀してよい筈のことであると信ずる旨を附記して置く。（完）（一九二七、三、七）

職業婦人社の新しい企劃に就て

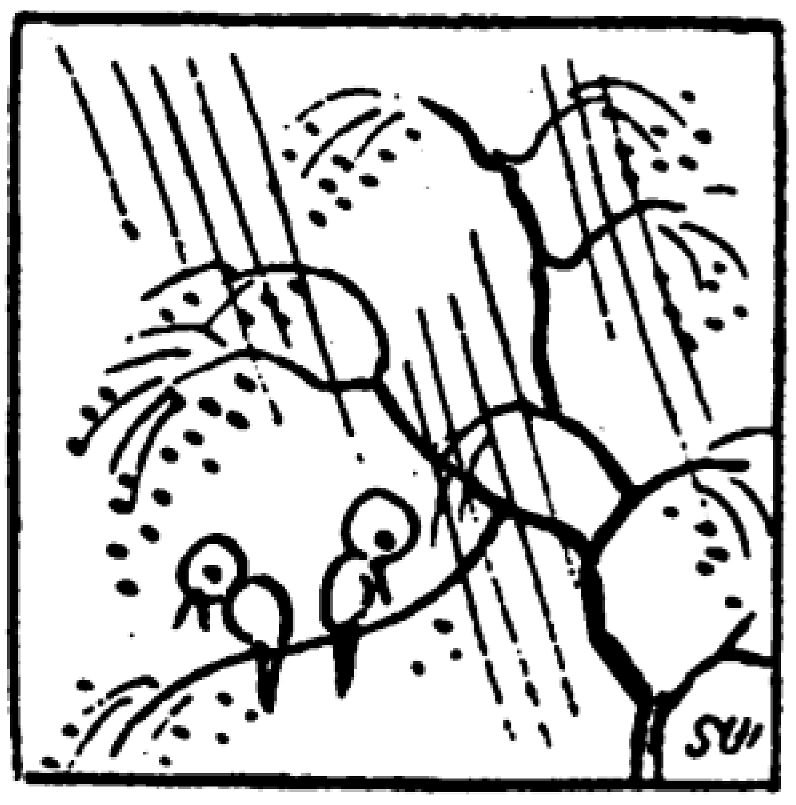
◇私たちの仕事に好意をもつて芝區愛宕下町二ノ三に事務所を無代償で貸してゐてくれられたO氏が、その商賣の蹉跌から店を疊まれた。從つて職業婦人社も、あの小綺麗な洋室の事務所を失つたわけである。現在はかりに同番地のK方に託してゐるが、この際積極的な計畫をたてゝ新事務所を一軒持たうといふ事になつた。

◇新事務所は、「婦人運動」の讀者はいふに及ばず、職業婦人、一般家庭婦人のために全部開放する。靜かで、快適な休憩の部屋も用意しやう。主として婦人や子供の問題一般社會問題に關する圖書雜誌、新聞をもそなへて、訪ねて來られる人々の讀書慾をそゝろう。婦人のための講習會、研究會、連續講座も次々に催さう。

◇在來の婦人職業相談所を擴張して、常に婦人の味方として勇敢に鬪ふために足もとを固める。すでに顧問辯護士として片山哲氏、布施辰治氏を委囑した。調査部にも力を入れて、婦人職業の問題、家庭生活の問題、政治の問題、その他のためにつねに輿論喚起、一般婦人啓蒙につとめてゆく。職業婦人社の仕事に來り加はられよ。

新しい戯曲に描かれてゐる戀愛觀

小林宗吉



此の前讀賣紙上で、英國現代劇作家の作品を種々紹介したが、その中のダブリユー・ジエー・ターナー氏の『ボホマックを食つた男』といふのは面白いといふので各方面から反響があつた。

奥むめを氏もあれが面白いと言はれた。そして何か文藝物をかいてくれとの事であるが、此の戯曲について、讀賣紙上では枚數に制限があつて書けなかつた二幕目の戀愛觀を書いて見たらと思つた。

しかし、こゝで前以つて言つて置きたいのは、これが新しい戀愛觀かどうかといふことは讀者の判斷に委したいことである。唯、此の戯曲そのものが、新しい戯曲であり、英國現代に於いて特色のある作品であることだけは私は、斷言することが出來る。

劇は、或る英國の紳士と淑女との戀愛から出發してゐるが大體のすぢは『讀賣』に書いた通りで、主題は男女の戀愛問題であるが、その二幕目の劇中劇に於いて、三人の支那人と一人の英人とが一つの卓子を圍んでこれから運ばれる料理を待つてゐる。こゝで英人と支那人との間に戀愛觀が交される。この會話が、此の戯曲中に重大なる部分をなすのである。

マンダリン。(支那人にして此の家の主人)私には西歐の戀愛觀がよく理解されないんですがね。實は私は英國の小説のモーリス・ゲストの小説を讀んだんですが、その中でモーリストといふ男が、自分を愛してゐない女を愛するんですが、そんなこと出來ますか。

英人。出來ないことはありません。むしろ當り前のことですオスカーワイルドは、それが男にとつて眞の戀だとさへ言

つてゐますよ。
マンダリン。さうですか。ワイルドは私もよみましたが、でもあれもあなたと同じで變つてゐますね。
英人。あなたは西歐のは普通ぢやないと思つてゐらつしやるんですか。
マンダリン。何でも違つたものを求めてゐるんぢやないですか、人に限らず、女でも何でも、それが普通ぢやないといふんです。こゝに男が一人の女を得たとしますね。彼女の眼や、口や足や、をよく見ますね、それが氣に入つたとして、さて、もう、何も心殘りはないかともう一度見る。(何を求めやうとして見るのかわからないが) そして、その女から去るか、又は、その女と結婚したとしますね。そして、その女を抱いたとする。その女を樂しむ。でも、あなたがその女の傍に夜中ねてゐて、じつと天井を見つめてゐる。天井が見えない。そして、あなた自身にきいて見る『これがすべてか』誰も答へない。益々たまらなくなつて來る。そして、『あゝ、これはとてもだめだ』と言ひだす。でもだめなのはあなた自身で、結局はあなたは快樂を得てたゞ滿足してゐないだけのことですからね。
支那人一。西歐人はそれを『崇高なる不滿足』だと言つてゐますよ。
英人。僕は一人の英國婦人を知つてゐますがね、どうしたものか、その人が妙に私を引きつけるのですがね。
マンダリン。その女の人にしたところが、別に變つたところはないのですよ。たゞ彼女はあなたにとつて、社交的に近づきにくい人だからぢやないですか。それも或る抵抗に對する征服感から來てゐるんですよ。現に、あなたはその人を得てゐるわけぢやないでせう。その女をものにしてごらんなさい。そしたら全く他の女と同じになりますから。
英人。私はその女と結婚までしたいと思つてゐるんです。
マンダリン。それが私に言はせれば普通ぢやないといふんですよ。その女をものにしてごらんなさい。その女の中をよく見ると、あなたはきまつて自分が間違つてゐたことを簡單におわかりになりますよ。そしてもう、他の、めづらしい女を至る處で捜し廻つて生涯を費しなさいますよ。
英人。でも、一般に西歐人は、戀愛について吾々より純粹ですよ。詩や音樂を見てもわかりますよ。
支那人一。いえ、大抵のヨーロッパ人の心はこんがらがつて

ゐます。彼等は、女の睫毛がいゝと言つては、それを見ていゝ感情を受ける。そしてその睫毛の女を抱く。そして他の感覺を受ける。そして前の感情を忘れるんです。さうなると、睫毛は單に睫毛で、全く他の感覺とは別ものですなぜ彼等は一人の女だけを守らないで他の人の睫毛を求めるんでせうかね。

英人。それは違うぢやないんでせうか。何でも美しいものを見ますね。と、それがもう永久に無くなりさうに思へて、それを得たくなるんです。それでぢやないんですかね。

マンダリン。この前フチワン(支那人)が美しい幕を買つたんです。それを四五日見てゐましたね。その後彼の友人達が四五ケ月見てゐましたよ。ところが、もういまごろは見ず知らずの人でもなきや、それをふり向く人もありやしません。フチワンはそれがあるかないかさへ考へてゐませんからね。

英人。その幕でさえ、何處かに持つて行かれたとしたら惜しがるでせう。

マンダリン。さうです。さうしたら彼の眼は又生きかへつて來ます。

英人。私が言はうとしてゐるのはこゝですよ。一人の女ばかり守つてゐるのは、よほど感覺を鈍らさなきや出來ませんよ。私にとつては、どの女も、獨自なものを持つてゐると思つてゐるんですがね。出來ることなら、みんなの女を知りたいんだが、悲しいことには時間が充分でないです。

マンダリン。でもそれは、致命的な考へですね。女が獨自であるのは、彼等が多數にゐて、あなたに取つて違つた關係にあるといふだけのことです。獨自性は關　係　そのものにすぎませんよ。丁度、庭のバラは花瓶のバラと違ひ、黄ろいバラは黄ろい服を着た女のやうなもので、大きい小さいやら、唯、形や色の上の違ひぢやないのですか。

支那人一。さうですよ。色や聲を抱くわけには行きませんからね。あなたの奥さんが機智があるからつて、その機智と一緒に寢ることは出來ないやうなものでせう。

英人。でも、さういつた性情がある希望をよび起すんですからね。

マンダリン。それは馬鹿な人間に取つてだけですよ。すぐれた人間はいゝ聲を愛し美しい色を見ますよ。(第二の支那人に向ひ、)君は一向話さないね。何か話したまへ。

支那人二。私は、私達はみんなエライと思ひます。でも正しくはないですね。

マンダリン。君はヨーロッパの人達に同意しますか。

支那人二。戀愛に於ける西歐人の最も立派な型でさえ、私から見ると妙にむづかしく滑稽と思はれるところがありますよ。でも、その爲に力を失つてはゐないやうです。むしろよく云へば下品といふより熱情的で純粹でせう。

英人。ぢや、戀愛をどんな風に考へてゐるんです。

支那人二。完全な戀愛は人間には出來ないと思ひますね。支那では、私達は、人間の意識を身體からきり離して考へてゐて、女に體を委すときには、我々が食卓に向ふときより以上にそれに心を注がないんです。それでゐて心と身體の不調和はちつともないんです。私達は、何を食つてゐるかわからずに貪り食ふのを輕蔑しますね。

英人。ぢや、あなたは結婚を生活の單なるお定りごとと考へてゐるんですね。

支那人二。そりや、ボートに乘つてゐる人はオールを便りにしてゐます。でもそれも帆をかけるまでです。帆にしたところが、蒸氣力が出來てくれれば用はありませんから、結婚

だつて戀愛だけではどうにもなりませんね。

英人。それでは夫は彼の妻に忠實であるべきだとは思ひにならないんですね。

支那人。私は妻を抱くこと母を抱くが如くといふ氣持ちを考へてゐるんです。

英人。その思想は私にはわからないですね。

支那人。私は、唯、好きだと云ふだけで妻と寢るといふのは愛に對して罪惡だと思つてゐます。でもこの思想はヨーロッパでは普通になつてゐるんですね。果物のさうした結合は精神的にも肉體的にも害惡です。私はチャーリング十字街の停車場で多數の男女が押し流されて行くのを見ますが彼等は厭ふべき動物の群のやうに見えるのです。雜種の怪物！　調和のある熱情から生れたのでなく、たゞ偶然によりて出來たもの。彼等は恐らくその兩親を惡んでゐるだらうと思ふんですよ。

以上は、戲曲『ポホマックを食つた男』の二十頁から二十六頁に亙る科白の要譯であるが、それが三人の支那人と、一英國人との對話にしてありながら、妙に現代を諷してゐるや

うなところのあるのを感ずる。
此の作者は勿論英人であるが、東洋人である支那人の戀愛觀の方にむしろ作者の批評眼を入れて、英國人で代表させてゐるヨーロッパ人の遊戯的戀愛を皮肉つてゐるのは痛快で、ヨーロッパ人が、唯、感覚の爲にのみ女を愛する態度についての立派な批評になつてゐると思ふのである。
ことに、此處に要譯した仕舞の方の、都會の多くの男女がたゞ偶然によりて出生したものであること、それらがみな動物に見え、兩親を惡んでゐるであらう思想など、私の思想に深い同感を與へ言ひ知れぬ悲哀を湧かせるのである(終り)

おもひで

江口章子

幼いしのおもいでは
冬の暖かい陽向ぼつこのやうにやさしい
お姫さまの牡丹ばけのなつかしいかほりおもひでの紫のびろうどの頭巾をかぶつてたつた一人の胸にきくふるい音樂のなつかしさ
たんぼゝの花を見れば
その乳草のかほりがやつぱり私を赤ん坊にする

おさないゆり籠のうしろに見失つた母の子守唄の忘れがたさに
今もなほ人形を抱いてなげく私だ
毛氈におて玉ほうづきに花かみさし
羽子板に赤いこつぽり南金玉にめん貝風船玉に長崎のカステラ
ぼんやりと過ぎた日の
遠い昔の赤いこつぽりの
おさない歩みのあとをふりかへれば
ふるさとの野の細道に
芹と土筆とれんげ草がもえ
一松格子の靑と赤との柄の長いつみ草籠は

湯の町の叔母よりの春ごとのおくりものであつた。
その湯の村の古ろめかしい籠は今の別府の街を幾ら歩るいてもさがし得ない私
私のおさな日は遠いものになつてゐるが
おもひではいつもやさしい南風だ
まぼろしに唄ふ山彦だ
われとわがおさな心にあたゆる笛太鼓
あゝそれだけに
おもひではまた夜の細路にきく按摩の笛のやうにさみしい。

母と子の記録

伊福部敬

どんどんく、どんどんく、
でんしやははしります、
しやしやうさんはさむいでしよ、
（舜のうた）

三月のまだうすら寒い日、私はおしつこでよごされた着物を洗ふ間、寝衣の綿入をきてゐた。

『お母ちやまの着物どいだけあるの』

舜が聞くのである。又始つたと思つた。

『二枚』

『どうして二枚しかないの』

『貧乏だから』

『貧乏て、お母さんなに』

『貧乏つてはね、それはね、おとなの人つてことよ』

私はどうして貧乏の説明をすることが出來よう、何故貧乏なのと訊かれた時、どうすればよいか、子供の心に他の人を羨み、自分を味氣ながる心持をもたせてよいか、貧乏からのがれる方法を彼は會得するか、私自身さへ危いのである。私はかうしてうそを敎へてしまつた。

中野の家から新井へ移る時、積めるものは皆荷馬車に積んで先に出してしまひ、家主に挨拶をして、私は手傳ひの人たちといつしよに子供をつれて歩いていつた。新しい家を知つてゐるのは私だけである。

陽はあたつてゐたが、風は痛いほどさむかつた。舜は寒いからお家へ歸らうといひ出した。これから新しい家へゆくのだと云ふと、そんな家はいやだと言つた。

『中野のうちがいゝよ、お緣側が長いんだもの、ガラスのない家なんか落つこちやうからいやよ』

『いゝ家なのよ、原つぱがあつて、段々があつて』

『いや〳〵、中野へかへらうよ』

『だつて、あそこはからつぽよ』

『そいじや、西ケ原へゆかうよ』

大人の都合で、半分は追ん出て、半分は追ひ立てられたがらんどうの家を殘して、ガラクタの家財道具はまだ宙にまよつてゐるだらう今、私たちにとつて、これが自分の家とよぶべきもののない今、子供は新しい家をいやだといつて泣くのである、なだめても〳〵哭き叫ぶのである。

『こんどの家も、僕たちがゐればいゝお家になるんだよ』と同じことを繰り返しながら、放浪の寂しみが、胸にしみいるのを感じた。これで薄團と握飯の包みを背負つてゐたら、どんなに辛く情けないだらうと思つて、白い往還の上に涙をおとした。

故郷、故郷、彼等は故郷をもつことは出來ない、せめて故郷の夢でももたせたい。

私がたづねていつた時、友達は留守で、幼稚園へ通つてゐる次男が一人、廣い家の中に遊んでゐた。お母さんはすぐ歸るといふから、その間私はその子供と緣にゐて話をしてゐた

『坊ちやん、もうぢき幼稚園御卒業ね、小學校どこへいらつしやるの』

その子の今通つてゐる幼稚園は、私立學習院といはれるほどよい幼稚園なのださうである。

『餘丁町』『餘丁町つてお兄さんと同じところ？』

『えゝ、五年で中學へ入つちやうんだから、どこだつていいや』

これが七ツの子供のいふ言葉であらうか、私は恐しく、そして痛ましくなつた。ペチブルジュアである兩親の虛榮がみえすいて慄然とした。

それから舜は私に言はれて、大切にしてゐたキヤラメルを五ツその子に分けてやるべく無器用に緣の端にさし出した。けれどもその子は手に觸れようともしない。

『坊ちやんに召し上れと御言ひなさい』『召し上れ』と小さい聲。

それは今のさき、私と同じ樣に貧しい母親から貰つたもの

で、舜には大切なものである。二つのものは一つ、一つのものは半分づゝ分けて食べよと、いつも教へてはゐるけれども乏しきにゐる彼にとつて、それはよほどの努力である。分けてやつても手をふれようとしないそのキヤラメルに、舜の心がかゝつてゐるのを私は知つてゐる、それを押へることは、母の私に辛い。だのに、その子は取らうともしない。常々その子の母である私の友だちが、人様からものを頂いてはいけないと教へてゐる通り、理想的に育ち上つてゐるのだらう。

私は甚しい侮辱の中で、打ちひしがれた私の子供の親切をいたはしく抱いた。

綺麗な筍

生田花世

この頃どこのお臺所でも筍の入つてゐないところはないだらう。お臺所に一切入らないブルジョアの夫人ならばいざしらず、およそおほかたの家婦はあの筍の新鮮な皮をその指で觸れてゐるであらう。ざら〳〵とするけれど、その手ざわりはごく心地がよい感覺をよぶ。生毛といつてよいか皮の表面のこまかい毛が、私たちの皮膚を輕快に刺戟してくれるのだ。いそぎの時は、たてに庖丁を入れて一ぺんに皮をとるのであるが、この可愛らしい肥り肉の筍を何となく愛する心持がもたれてゆつくりしてゐるときには一枚づゝはいでいつてはそこに現れてくる一段一段の黄緑色がかつた白い肌をめでてゆく。私が幼い時、母が臺所で筍をむくときには、かならずそばへよんでもらつた。そして母の手から一枚々々こぼれる筍の皮をもらふのである。上二枚位は硬いからほかすが、中味の七八枚といふものごく綺麗で柔かいからそれをもらつて『からかさ』をつくつて遊んだ。上の方を五分ほどの幅に三度折りこんで、全體をまるめて、その折り込んであるため縁に

なつてゐるところをこまかな間隔に裂いてゆくと、パラリとひろがつて、可愛らしい傘の形になる。そんな風に筍の皮を遊んだのもたのしい昔の思ひ出である。それから、梅干をもらつてその筍の皮につめこんで、三角形にして、絲でからめて半日位おいておく。すると筍の皮は、したゝるやうな紅色を呈してくる。それを左右の隙き目から唇で吸ふ。そんな風なことも田舎では子供のたのしみになるのだつた。何くれとおもひ出すと私の臺所では、思ひ出の煙が靑に黃に、白に、綠に、搖曳する。

筍は糠と一緒に煮るのがよいとは人のいふところである。私もさうすることもある。しかし小さい筍だと、茹うでておいて夕方まで水にひたしておく位で大抵よいやうである。アクをぬいた筍を、まないたの上において庖丁を入れるときは面白い。それはぺつこうのやうに美しいし、柔かいうちにも爽かな彈力があるから切れ目がきちんとして氣持がよい。お惣菜の時には大さく切るのであるが、筍飯にしようとおもふ時のこまやかな切りをするときはとりどりに出來るからたのしみである

『筍の御飯しますよ』

こんなにこ〳〵して家の人にいふと、

『いいな……』

とやはりたのしげに答へてくれるのもいい。

下手の橫ずきといふのは私のやうな臺所仕事だらう。興味津々たるものがあつて、とりかかるのだが、せい〳〵食べられる位のところ、あまり自慢の出來るほどでない。もしうまかつたとしたらそれは筍の個性發揮のたまものといへよう。

私は筍を食べることは勿論好きである。(たゞし下宿屋や、宿屋などで、コチコチした冷え切つた黑ずんでさへ見える筍をたべるときはすかない) 然し食べるにもましていいのは、あの竹林の中に入つて筍をほりとるたのしみである。もう十八九年もの昔になるが、私は鄕里で、吉野川の上流(私の國での流域の中での上流に近いところ)にそうたところの醫者の家に女敎師として假寓してゐたことがある。その家の藪が吉野川の堤防ぞひに數丁生えしげつてゐたのであるが、そこへ小母さんや子供たちと一緒に籠をもつて、筍ほりにいつたものである。竹が陽の光をさへぎつてゐるとはいつても笹の上をわたる日のきらめきは明るい。また竹と竹との間には吉野川を下りてゆく舟のむしろ帆がゆつくりと動く。鳥がな

く、それは静かでいゝところだつた。そして地を見ると歩毎に五寸、六寸、一尺一尺二三寸といふ位にモクモクと尖端をもたげてゐる筍の群衆である。私もその時多分十二三本もほりとつたであらう。みんなで二三十本とつたけれども、その土のむくれ立ちさへ跡づけないならば、堀りとつたとさへ分らない。そんなに多い筍であつた。

×

筍の俳句

竹の子や一夜にかつぐ八重葎　（蕪村）
竹の子にあふて家路もほど近し　（也有）
竹の子と品よく遊べ雀の子　（一茶）
裁ちしかな筍の根を惜しまざる　（芋郎）
竹の子や雲隠にまで嵯峨の坊　（鬼貫）
門さして筍寺の闇夜かな　（鬼城）
竹の子や稚き時の繪のすさび　（芭蕉）

筍の歌……。

邪魔になるところ／＼へ竹の子の
よりによつてぞはい出づるかな　（一茶）

×

めづらしく一茶の筍の歌を見たのである。まつたく筍といふものは自分のはひ出したいとおもふところへはかまはずにぬつと出てくる。いつの年か、初夏、手賀沼へ私は二三人と一緒にあそびにいつたことがある。湖畔に子の神といふ祠があつてそこへのぼつてゆく時、道のまんなかへ相當太い筍が一本五六寸位の高さで勇敢に突立つてゐる。こんなになるまで折りとられないでゐるのも田舎ののんきさ。けれど結局どうなるんだらう……と思ふと何か可笑しいやうな可哀さうなやうな感心されるやうな氣がして、私はその筍を一ぺん撫でてやつたりしたことである。

×

筍の童謡……。（みんな子供の作）

たけのこが背戸のお山に顔出した、今日は一寸、明日は五寸、七日たつたら、もう四尺、私のせいとくらべつこ
（森計喜）

きんの、大つけになつた、たけのこ、けふまた大つけになつた、いんまにてんまでとゞくだろ（松本湯吉郎）

×

筍の調理には、そぼろ煮、葛煮、胡麻酢あへ、あちやら、木の芽あへ、筍飯其他。

東京共働社物語【續】

廣田金一

私の子供時分には、村では物心づく頃から子供にも商ひをさせた。學校が退けて歸ると天秤棒を肩にして商ひに出かけるのである。一體が商人萬能の地方だから、商賣をするといふことには一種の誇りに近い得意な喜びさへあるのであつた。

私もその商ひに行つた。近在の百姓家へ行つて半端もの、野菜とか豆とか玉子とかいふものを買つて貰つて——村を廻つて來る仲買屋などが取扱はぬ樣なもの、例へば品が不揃ひだとか、量が一定量に滿たないとか云つた風のものが子供の商賣になる——それを買ひ集めては町の問屋筋へ持つてゆくのである。

こんな僅かな子供だましの取引で儲けが浮かう筈はないので、そこには、目方を胡麻かすとか、品質を嘘云つて相手を陷れるより外ない。そして、私たちが多少なりこの商買から儲けをうる事が出來たといふのも、もと〳〵かういふ不正な手段に依るより外なかつたのはいふまでもなく、皆平氣でそれをやつてゐた。いや、それを最も巧妙にやつて、最も押し強く胡麻かしを推してゆくものが商人として一番優れてゐるわけで、皆からも尊敬せられるのであつた。

私は子供心にもだん／＼とかういふ商賣に疑問を抱くやうになつた。學校では『正直に

勞働祭の歌

其の一

一、櫻は散りて貴人らの
榮華の夢のさめし時
靑葉の風の送り來し
プロレタリアの記念祭

◇

二、人類分化の柱なる
この双腕をさしのべて
天下に示せ我々の
意氣と希望の友愛を

◇

三、暴虐無道の資本主義
屠る使命は我に在り
友よ今日の日もろともに
かたく誓はん自由戰

◇

四、あゝ今日の日は萬國の
同志の意氣は天を突き
敵の牙城に迫るらん
健かなれや同志らよ

◇

五、あゝメーデーは何の日ぞ

しなくてはならぬ。」と先生が教へて呉れるのに商賣に行つては秤の目盛をちよつとごまかしたり、相手のスキに乘じて桝目をごまかしたり、等々、少しでも儲けを多くする爲にあらゆる不正手段を考へ出て手際よくやらねばならぬ。『商賣とはこんな不正手段に依らなければやつてゆけないものであるのだらうか』かういふ疑問がだん／＼重苦しく私の心を押へつけて、自然と、往き歸りの歩みものろくなり勝ちであつた。

そして結局、人間は勞働で飯を食ふのが最も神聖だ、と考へた。さう考へつくと私は矢も楯もたまらなかつた。そしてとう／＼東京へ出て來て職工になつたのである。――一體消費組合の仕事は、たゞ組合精神ばかりではやつてゆけないものだ。とにかく商賣といふ事に一種の趣味を感じてゐる者で、又さういふ方面の事務的にも長けた人でないと六ケしい。後に私がかうして消費組合運動に入つて幾らかの成績をあげる事が出來たといふのも子供の頃の天秤棒時代に養はれた趣味やら何やらが役立つてゐるだらうと思ふ。

扨、いよ／＼自分の念願がなつて一人前の勞働者として飯を喰ふやうになつた。かうして自分の『勞働で飯を食ふ生活』に入つて再び私の心を捉へたものは『自分一人がやつと飯が食へるだけ程の勞賃しかとれないといふ事は、それはどちらだつて可いとしても、然し、かうして働いてゐる自分の勞働がそつくり社會のため人のためになるのなら結構だが考へてみると自分の勞働の大半は、雇ひ主に勝手に搾取されてしまつて、無茶苦茶に使はれてしまふのだ、何のための勞働か？　結局彼等資本家を益々太らせ、おごらせるための自分たちの勞働であるのか？』

と、こんな事であつた。其で結局『勞働で飯を食ふ生活の神聖』さといふ事も私の心の

世界の敵のおそるゝ日
世界の味方の祝する日
正義の赤旗ひらめく日

其の二

一、聞け萬國の勞働者
轟き渡るメーデーの
示威者に起る足どりと
未來を告ぐる鬨の聲

◇

二、汝の部署を放棄せよ
汝の價値に目覺むべし
全一日の休業は
社會の虚僞をうつものぞ

◇

三、永き搾取に惱みたる
無産の民よ蹶起せよ
今や二十四時間の
階級戰は近づけり

◇

四、起て勞働者奮ひたて
奪ひ去られし生產を
正義の手もて取返せ
彼等の力何ものぞ

中でアヤフヤになつてしまつた。そして結局これは今の社會の經濟組織が惡いからだ、と思ひつく樣になつて、私はまづ勞働運動に熱中させた、そして一生懸命にやつてゐる内にストライキの慘害から、又いろ／＼と考へさせられて消費者としての立場からする解放運動消費組合運動に入るやうになつたことは、本稿の初めに書いた通りである。

大正十一年四月いよ／＼産業組合法に依る認可を申請して許可が下つた。認可をうけた年の終り頃の東京共働社の成績は、

組合員	一八二八
申込み口數	二六六口
出資金	一、五七五圓
賣上總額	一二、八〇三圓
右の内	
剩餘金	七七六圓餘
總經費	五七六圓
差引	二〇〇圓餘

これを出資金に對して年六分、購買高に對して一圓につき二錢の配當をした。配當金は組合に積み立てゝることにした。

かうして消費組合運動としては割合にいゝ成績をあげて、事業が推渉しやうとしかけた處へ彼の關東地方の大震火災が來た。

震火災に依る當時の損失は、烏有に歸したもの一、七〇〇圓、まさか此處までは火が來るまいと思つて、持ち出した處で全部燒いてしまつて、僅かに四石餘の白米だけが多勢の會員諸君の努力で無事に持ち出す事が出來た早速にこれを組合員に分配したので、共働社の組合員だけはあの當時も玄米飯を食はないですんだと云つて、感謝されたことであつた

思ひ掛けない打撃に初めはすつかり意氣消沈の姿で働くことも苦しい程であつたが、こゝで一奮發と覺悟を決めて、丁度會計係の懷中に一五〇圓あまりあつた現金の中から八〇圓程、木の香あたらしい材木を買つて來て未

◇

五、我らが武歩の先頭に
掲げられたる自由旗を
守れメーデー勞働者
守れメーデー勞働者

其の三

一、あゝメーデーよ、
メーデーよ
飢餓窮乏の恐怖なき
自治勞働の新社會
建設すべき我々の
意氣を天下に示すべき
一年一度の祝祭よ

◇

二、あゝメーデーよ、
メーデーよ
奪ひ去られし人類の
正義と自由を萬民に
恢復すべき團結の
威力を世界に示すべき
一年一度の祝祭よ

◇

三、あゝメーデーよ、

だ燒け殘りの火の消えないやうな處へ取り敢へずさゝやかな事務所を作つて看板を立てた更に(九月)三日には、組合は一層奮闘して會員諸君のために働く旨を大看板に書いて、皆に安堵させた。

何分にも運輸交通の不便な最中であつたが幸にして大島共働社は災厄をまぬかれたので未だ橋も落ちた儘の險しい中を決死隊を組み立てゝ大島まで入用品を取りに出かけた。勿論車に積むわけにもゆかず、肩にのせられるだけのものを山積みにして脊負うて歸るのであつた。七日八日になつてから區役所から、米穀類の配給をやつてゐた者に一日三俵づゝの玄米を拂下げて貰へるやうになつたので、東京共働社もこれを受けることにして、知り合ひの米屋で精米機を借りて精米しては、各組合員に配米出來る樣になつた。味噌醬油野菜類を災厄をまぬがれた近在へ買出しに行つて、未だ萬事に不便で困つてゐた、組合員及び一般市民へ供給する事にもした。

とにかく非常な困難の中の仕事ではあつたけれど、それだけに組合としては組合員のために一生懸命であつて、働くものゝ立場から見ても憶出の多いことであつた。そして震災に依る一、七〇〇圓程の損失の内四〇〇圓の償ひを、その年の暮までにつける事が出來た第三年目に至つては、

震災當時の努力が組合員及び一般市民にも認められた結果、事業はます／＼發展擴張して行つた。

丁度十三年の一年間で、震災に依る缺損を全部償つた上、三五九圓の剩餘金を產み出すことさへ出來た。

組合員	三二五名
出資口數	五一二口
拂込總數	三、七五八圓
總賣上げ	七一、四九二圓

出資に對して四分八厘、購買高に一圓に對して一錢の割で配當をした。

メーデーよ
地球をあげて共通の
プロレタリアの祝祭よ
歡び誇ろ親愛の
勞働勝利の喊の聲
大地裂け天も呼べ

其の四

一、この世の富も繁榮も
我等が汗の末になる
我らが手をば置く時は
世界も闇となりぬべし
汗の價の貴とさを
いざ遊民に示さばや

◇

二、國と國とを隔つれど
賃銀奴隷の屈辱に
悲憤は同じ勞働者
國の境をけふ越えて
團結力を示すべく
堅き握手を交すかな

◇

二、史を按ずればあゝ茲に
血を以て染めし三十年

而して大正十三年には經營の健實なことを監督官廳より認められて、低利資金を借りる事が出來た。現在の事務所を建てたはこの時である。仕事の方もぐつと擴張した。

現在東京共働社では、二階全部をクラブにして、組合員は勿論のこと、信用ある紹介のある限り誰にでもこれが使用を自由に開放してゐる。圖書雜誌類、碁將棋等の娯樂品を具えてゐるから休日や祭日には、一日ゆつくり遊んで歸る事も出來る。個人の家に多人數が會合する場合とか、急に泊り客があつて狹小な家では旅館にでも案內しなければならぬと云ふときとかにも、夜具の用意が充分出來てゐるからいつでも組合の二階を利用する事が出來る。勞働組合思想團體その他の集合所にも講習會、研究會その他の會場にもいろ〳〵提供してゐる。

× × ×

自分達の希望としては、近い將來に、組合は、社會的施設として、浴場、公衆食堂、病院、學校(成人講座)遊園場、運動體育に關するもの等を完備したいと思つてゐる。諸外國ではすでに着々とこの方面に組合員のための諸施設をなし遂げてゐる。

現在の我が國の消費組合としては、自分で製產、加工から初めてゐるものは極めて少種類であるが、組合が組合員の必要とする凡ゆる物資を組合の工場で組合員に依つて製造し又加工する樣にならねばならない事は云ふまでもない。

殊に婦人側に對する自分の希望としては、メリヤス、靴下、防水マント、運動シヤツ、エプロン、子供服、足袋等云ふものを婦人組合員が共同して材料の仕入から生產から加工までやつて、各組合員の家庭の需要にあてるといふ風にしてくれられたら非常にいゝと思ふ。(現在でも多少かういふ雜貨類を、組合員の家庭で作つて、賣つてゐるけれど、もつと

今日メーデーの祝祭に
金盞酒はあらざれど
乾坤ゆらぐ喊の聲
未來はわれらのものなるぞ

ハガキ回答(續)

平田のぶ

理由

敎育は生きる事、愛する事だ。自分の生きられぬ生活、自分を愛せぬ生活に於ける敎育は死だ。母としての生活を放棄、又は、犧牲にする事はほんとうに自分の生きる道ではない。從て敎育も生きられない。

母性愛を敎育の上に生かす一つの方法として(否とする者の根本的誤りは、敎育を愛とみてない處にある。だから彼女等は、敎育を生かす代りに殺してゐる。いゝ敎育をし樣と思つて惡い敎育をしてゐる。いゝ敎育者になる積りで片輪になつてゐる)

大規模に、婦人諸姉の活動に依つて大量生産をして貰ひたい)。
　內職で子供服や靴下やエプロン等を作つてゐる婦人は大分多いやうであるがその口錢は極めて安い、それは出來あげた內職品を仲次店が買とり、それが、問屋にゆき、仲買人にゆくと云ふ風に、數人の中間商人の手に亘つてそれ〳〵に一割乃至二三割の口錢をとつてゐるのだからである。從つて、內職として自分たちが作つてゐたもとの手間賃は幾錢にもならぬ安いものであつたけれど、洋品店からその品物をわれ〳〵が買ふときは、手間賃の十倍近い値段を支拂ねばならぬといふ結果になつてゐる。
　これが、組合員に依つて作られ、組合員の家庭に買ひとられるのだとしたら、一人も中に立つて搾取する商人はないのであるから、その間に些も虛僞がなく、材料がいくら、一日にどれだけの出來上りがあるとしたら、一日の日當はどれだけに見積つて相當であるか又、自分たちが最低の生活を維持して行くために必要なものは幾ら、更に需要者の手に渡るまでの手數料はいくいくら、と、精密に計算をとげた上で、內職する者の手間賃も決まり、賣價もきまるわけであるから、買ふ方は安いものを手に入れる事が出來、働く方は、高い手間賃(相當な)を得る事が出來るわけである。又一方では、よし物質的に報いられる事は少ないとしても、この方法に依つて組合の精神が實現出來るのであるから、ぜひ婦人諸姉の實行にまちたい事である。
　なほ、現在組合の仕事のために働いてゐる人は相當數に上るが(婦人は少ない)組合の事業も發展し社會からも相當に認められる樣になるにつれて、組合員の中から、今少しみんなに、經濟的にも報いたいと云はれるのであるが、誰も固持してそれを受けない。組合に働く人たちは、自分たちの働きが物質的に

大野ふよの

○可とします

理由

女教員側から云へば

1,安心して無理なく 職務を全うし 得ることが出來ます。

2,現下稍もすれば 女教員の能率低下を叫ばれますが 1.の理由により其の 弊を除くことが出來ます。

3 當局側から云へば

1,經驗ある良女教員を永く 教職に留めておくことが出 來ます。

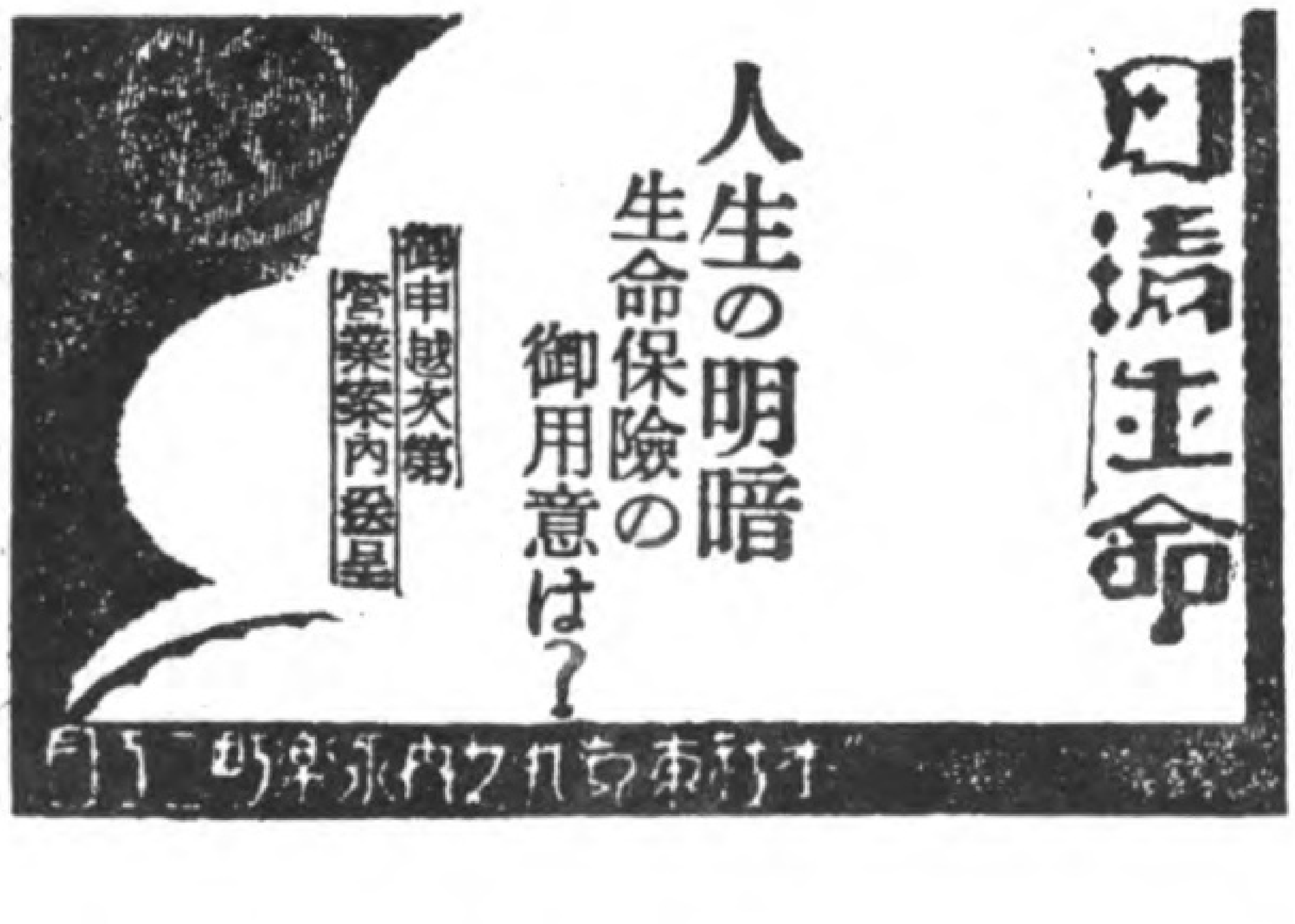
2,豫算不足の場合と 雖も良教師を得る ことが出來ます

報ゐられるといふ事を少しも欲しないのである。自分たちの生活は最低限度を維持してゆければそれで充分だと思つてゐる。

從つて組合としては、さういふ人たちのために例へば、病氣や不時の災難のとき充分手當が出來る樣に保險に加入して、その全額を組合が負擔し、老後の退職手當として、特別の積立金を一人につき一ケ年五〇圓位の割で準備してゐると云つた風に出來るだけの事をしてゐる。

組合運動に働く人々にとつては、自分の勞働が少しでも、組合の仕事のために捧げられるといふことその事が、すでに大きな喜びであり、感謝である。自分たちは皆、身體を壯健に持して益々組合のために働きたいと希ふばかりである。

聞くところに依ると、すでに婦人諸姉の間にも、消費組合の仕事のために働かうといふ計畫が進んでゐる由、消費生活を以てその主なる生活としてゐる婦人が起つて、われ〳〵の消費組合運動に力を添へられるといふのは我々にとつて千萬の力である。



消費組合運動と婦人の活動

――消費組合聯盟婦人部成らむ――

去る十七日西郊共働社で、消費組合の仕事に興味を以てゐる婦人が寄つて、婦人の間にもつと消費組合の精神を徹底させるために、そしてこれから婦人も男子と一緒に消費組合の仕事をやつてゆかう、さうするにはまづどういふ道をとつたらいゝだらうかと云ふことに就いて協議しました。

我が國にも近頃では大分澤山の消費組合が出來て――各地方でも非常な勢ひで、若い人たちが意氣込んでやつてゐます。――消費組合の運動が目ざしてゐる目的についてもある程度の理解を社會は持つやうになつたと思はれるにも拘らず、肝心の女の人がこの運動に男子に比べては未だずつと不熱心であるのはどういふことでせう。

元來、家庭に於ての女の生活はおもに消費方面のことをなします。衣ることの一切毎日〳〵の食べ物のことについても三千萬の婦人の内の大部分の人は、その一生涯の大部分の時間をそのために使つて、その精力の大部分をそのためにすり減してゐるのです。それ程に女にとつては關係の深い仕事である消費生活に就いて全で考へずになすがまゝに任せてゐました。殊に、私たちの消費生活の社會的な意識なんて云ふことに就いては全く考へてもみずに――

中野の消費組合は現在組合員が七十八名（未だ組合に加入してゐないで物品の供給をうけてゐる人が同數位ある）であるが、せめて組合員百五十名になると餘程仕入れも圓滑にゆくし、値段にしても、公設市場の標準値段よりは幾分廉くしてもやつてゆけさうであると、組合は安うござんすよ、といつでも云へるやうだと組合員をふやすことも大變易いのだけれど、と私たちが云つたのに對して大澤氏は、云つてゐられました。

消費組合を以て、やすい物を供給する組合だとみられる事を、消費組合の精神は拒否します、ですから安く賣ることで人を釣つて會員を殖やさうとする方法をとるのを嫌がります。消費組合といふのは廉賣の機關ではないからです。普通に賣る者と買ふ者との間で、商人が利益――つまり口錢をせしめるのを一切排して、商人なしに、われ〳〵の組合の力でわれ〳〵の必要のものを仕入れて用に供するやうにするのが私たちの消費組合であるのですから、出來るだけ安く賣ることはいゝ事だけれど、安い事を以て會員を引きつけるといふことは反つて組合を墮落させることだからであります。

殊に品質とか桝目のはかり工合とかいふことになつたら、消費組合は誰の店でもない我々自身の店であるのであるから、かりに專任の仕入配給者をおいてゐるにすぎないのであるから、他をあざむいて胡麻かしをする必要は毛頭ない――そんなことをして帳尻が合はなかつたら、反つて困るばかりでせう。

東京共働社の廣田さんは、消費組合が市場より安い必要は決してない。むしろ組合でさへ、あれだけの値段で賣つてゐるのだ

もの、組合より安く賣つてゐるのはどこかごまかし物だらう、と人が組合を一般の物價のバロメーターにするほど信頼される必要があるといふ事を力説されました。

殊に、組合では商人の場合の樣に、買つてしまへばそれだけ、たゞ商人を儲けさせるといふのではなくて、われ〳〵が石鹸一つなりと買へば、支拂つた値段から出る利潤(仕入値段と賣價との差額の事)はそのまゝ我々の――つまり組合員全體の利潤になるのであつて、それが配當金として割戻されたり或ひは積立てゝ組合がもつと進んでいろ〳〵の事業を行ふ資金になつたりするのであります。そして組合がかうして充實すればする程、組合員がよくなるだけなのであります。

かういふ工合であるから、組合は安いのですといふ事で宣傳をしないで、この組合運動のほんとうの精神を説いて、主婦たちを商人の搾取から解放させる樣に進めてゆかうと云ふ事となりました。

それから消費組合では、御用聞の制度を絶對にやめてしまひ度いと云ふ事でありました。酒や米やの小僧大僧なら毎日出かける事が商賣ですから、少しづゝでも毎日注文がほしいでせうけれど、組合では絶對にさういふ手數を省くために、まづ一ヶ月必要な品物の分量を主婦は豫定しておいて、貯め置きの出來るものは月の初めにすつかり揃へること、貯めておけないものは三日なり四五日なり分の入用の物を全部まとめて注文する。そしてそれを持つて來た時に、更にあと五日なり一週間の内に入用でありさうな品々を見計つて注文すると云ふ工合にしたいものです。(特に急を要するものは電話なり、何なりでするこど。)

東京共働社では初めからそれを實行してゐるので、今ではすつかり組合員はそれに慣れてしまつてゐると云ふことでした。主婦の心の配り方が第一必要な事であります

殊に、組合員同志の婦人が一緒になつて日用品の品質や値段やを始終吟味してゐて、一般の家庭婦人が故なく暴利をむさぼられたりしないやうに、必要に應じては不賣同盟をしてでも、消費者の利益擁護のために常に強くあること、仕立物洗濯物、修繕物等も組合員同志の間で便宜に取計ひあふ――ゆく〳〵は私たちの家庭生活、わけても臺所の生活を簡便にするために組合の婦人が中心になつていろ〳〵試みやう。

その他いろ〳〵な事について打合せたり意見を云ひ合つたりしたのですが、とにかく婦人がもつと消費組合運動の責任ある地歩を合めてどん〳〵働いてゆかれば、ほんとうの發達は困難であらうことには、誰も同感なのでありますし、各組合員に於てもこれまでは多く、男である戸主が賛成して加入する主婦はたゞ必要品を外の商人に注文するのと同じやうな心算で漫然と注文してゐるのが可なり多いけれど、これは主婦の方が組合の精神を理解して加入し人にもすゝめるやうにならなくては發展しにくい大いにそのために努力しやうと云ふ事になりました。

來る五月三日、東京共働社で改めて婦人部の成立を具體化させるために準備會をする事にして別れました。



一錢の幻想

永島暢子

濃綠の若葉が繁つて、今にも毛蟲が、ボタリ〳〵音をたてゝ落ちて來さうな細道を、彼女は重苦しい氣持ちで歩いてゐた。
まだ言ふべき事を澤山に頭にしまひ込み乍ら、言はずに物別れした論爭の後の樣な氣持ちである。
『でも仕方がないぢやないの。私の心から出てした事でもないのだもの………』
彼女はふと聲を出して言つて見た。彼女はまだあの事を氣にかけてゐたのであつた。
はたちを過ぎたばかりらしい、黑い、そして若さに充ちた顏に、泣きさうな表情を湛へた鮮人の面影が浮かんだ。
『あなたは私をそんなに馬鹿にするんですか。人間をそんなに愚弄するんですか。』
彼はやう〳〵言へる日本語に、いつぱいの恨みを込めて言つたのだつた。
『私は何もあなたを馬鹿になんかしはしませんわ。私には人を愚弄するだけの餘裕はないのです。』
彼女はその時、さうきつぱりと答へたのだつた。その聲は、彼女の眼と共に、浮はづゝては居たのだが。
『が』と、彼女は今また考へた。自分は決して彼を愚弄なんかしはしない。しかし結果は愚弄したも同じである。さう思ふ事

は苦しかつたが、さう思はない譯にはいかなかつた。彼女は憂鬱な氣をまぎらす樣に、道ばたの小石をコツン〳〵と踏んで歩いた。

彼女は其朝お風呂に入つたので、いつもより出かける時間がをそくなつた。時計を見乍ら御飯を食べてゐる時、一人の行商が來たのだつた。『入りません、と言つて頂戴！』彼女はいつもの樣につぎ子に言つた。つぎ子の玄關で、何か言つてる聲が聞こえて居たが、彼女は氣にもかけないでゐた。

『もう歸つたかしら？』さう思つてひよいと緣側をふり向いた時、若い男が、小さいバスケットを持つて立つてゐた。彼女はグツト癪に障つたのだつた。

――×××××――

『どうしてもいらないんですから……』強いて感情を押へながら、むしろ頼むやうに言つた。

『私は苦學生です。新學期を目の前にして學費に困つてるんです。』

その當然らしい、人の情けにすがるのが尤だといふ樣なしつこい態度が、また彼女を焦立たせた。それに彼女はいつも感じる苦學生に對する反感――それは所謂立志傳中の人物に隨喜する頃であつたら、自分は譯もなく感激するだらう。が何故人の憐れみにすがつてまで學校の門をくぐらうとするのか、何故もつと、それこそ當然の權利として學問の解放を叫ばないのか、といふ事に疑問を抱いてゐるのであつて見れば、苦學生は、消極的にいじけたものにしか見えないのである。さうした感情が勃然と起つたので、より冷たい態度に出たといつてもよかつた。

『私は苦學生といふ名で、さうして哀願的に行商する事は贊成は出來ないのです。それに、今、私達はお金がないのですから……………。』

『私は何も買つて頂かうとするのではありません。一錢でもつけて頂き度いと思ふのです。』

なんといふ事だ！ と瞬間的に彼女は思つた。一錢でも？ まるで乞食ぢやないか。が、彼女は時計の針にせき立てられて

ゐた。好きなやうにしろ、といふ氣がむら／＼と起つた。彼女の唇には皮肉な笑ひが浮かんだ。一錢をつぎ子に持つて行つた。
しばらくして、カチンと錢の落ちる音がした。彼女は箸をおいて立たうとして、はつとして彼を見た。彼の凄い形想をして彼女を見つめてゐる眼と烈しくぶつかつた。
『一錢――乞食でもひどいぢやありませんか。』
『私から別にあげやうとしたのぢやありません。』
もう明らかに挑戰的な態度で彼に對した。彼は恨みの言葉を殘して悄然として立ち去つたのだつた。
『自分からくれつて言つたんだもの。』
淋しい彼の後姿を見ながら、彼女は、自分を辯護する樣に言つた。けれど、彼女の氣持ちは浮き立つて來なかつた。
『本當だよ。自分で言つて、怒るなんて事はない筈だよ。』
『人を馬鹿にする、もないわね。』
つぎ子までが言つた。
『しかし、結局は馬鹿にした形なんですからね。』それは腹の立つてる樣な聲だつた。事實彼女は、自分に同情していふ人達の心にさへ好意を持てない程いら／＼してゐた。
『放火でもしないかしら？』ほの白い聲でつぎ子は言つた。彼女はギクリとした。
『するかもしれないわ。またされたつて仕方がないわね。』
自棄に充てる言葉、それは、この事で母や、つぎ子達と話し度くないからであつた。頭底今の自分の心がわかつてもらへないなら、石の樣に默つてゐてもらひ度いのだ。
『何んといふ優者らしい言葉だ。』
彼女は、自分の言つた言葉を一々反證して見た。その一つ一つの言葉の中に、記者の餘裕を含んでゐないと言へるか、平常

の彼達の生活と共に生活を惱み、それに對して持つ理想と熱とは何處へ行つたか。（………皆賛成はする。が、いざ鎌倉といふ段になると――フン空だからな）昨日讀み終へたばかりの小說の中にあつた一節を思ひ出した。それが鋭い針のやうに自分を突きさす樣に思はれるのだつた。いざ鎌倉になると――頭では、常にこびりついてゐる自分の觀念を憎み、生活の更新の行進曲を奏でやうとしながら、いざとなると、この無形の物質に、しがない優者の座席にしがみつかうとする自分の心、虛僞、卑怯、彼女はこゝまで自分を鞭打つて來るとまたはいたたい氣持ちが湧いて來るのであつた。

『あの人達だつて惡いんだ、あの若さで、あの體格で、人の同情を强ひて歩くなんて間違つてゐる。勞働すればいゝぢやないかそれに學校がなんだ。結局無駄な事だ。もつと行くべき道はある筈ではないか。』

少しは救はれた樣な朗らかさを感じる。けれどすぐ、坂本公園あたりにあぶれた日の、物おぢた眼をしながら日なたぼつこの勞働者の群れを考へ出すのだつた。一人或は二人連れの屈强な若者が、助けを乞ひ歩く姿を見る每に、强い憂鬱に襲はれがちな彼女は、曾つては勞働を厭ふものとして嫌忌したのだつたが、賣らねば生きられない唯一の勞働をさへ賣る事が出來ない事を考へると、彼女の憂鬱は、より廣く、より深くなる。さう考へれば、鮮人が飴を賣つて歩くのも現在では餘儀ない事ではあるまいか。

とにかく彼女は、ポケットに錢のある間は出した。が、出した後は苦しむのがおきまりだつた。自分のしたお情け的な行爲が腹立たしかつた。それをさせる彼等が憎らしかつた。こんな同情は眞實だらうか。

いつか、彼女の勤め先の雜誌の校正に、或印刷工場に行つた時、十三ばかりの女の子が入つて來た事があつた。女の子は默つたまゝみんなの前に飴を持ち歩いた。

『そんな飴十錢は高いぞ。』

『よく來るな、圖々しい子だよ。』

さうからかふのみで誰も買はなかつた。けれど女の子は、言葉が通じないのか、唖なのか、無表情な顏で、執拗にせがんだ

笑ふ事も怒る事も生れながらにして知らないやうな顏だつた。その時彼女は二つ買つた。が、自分だけが同情心を持ち合はして居た樣に、暫くすると、自分のした事を恥かしく思ふ彼女であつた。さうはいふものゝ、彼女が、所謂おつとりとしたお孃樣らしい時に來て同情を賣る人達は幸だつた。その場だけでも幸だつた。けれど、物の本義を摑かまふとしてあせつてゐる時に來る人は、いつも彼女から斷りを言はれた。しかし、彼女を惱ます事は同一である。殊にその人が溫和らしい人だと、餘計苦しませられる。

『今の人が若し出刄でも振り廻しさうな人相の惡い人でも、自分は斷つたかしら？』

平手でピシヤリと打たれた樣に、彼女は兩頰を押へて胸をどきつかせる。彼女はそれに『いや』と答へる程の公明さは持つてゐなかつた。『放火をしないかしら？』とつぎ子が單なる想像から恐怖を感じて言つたであらう事にさへギクリとする。おとなしく飴一つも買へばよかつた、といふ樣な安易を求める氣持ちさへして來るのをどうする事も出來ない。そして、それの報酬としての苦しみは同じにしても、恐怖だけから逃れる事が出來る。さうした狡い心も浮かばないではなかつた。

彼女は、あの泣きさうな顏に、日本刀を持たせた。ピストルを持たせた。火の中に狂笑する姿をも描いたりした。

——×××××——

『何故自分は心から話し合はなかつたらうかしら。』

やがて彼女は、ひた／＼と濕ほして來る後悔に似た、しかし和やかな氣持を抱いて自分に言ひ聞かせて居た。『自分はそれだけの落ちつきを持たないのは、本當に淋しい事だ。』

理屈はなんと言はふとも、自分には、彼等と融和しきれない甘へた心があるからぢやないか。といふ囁きも聞こえる。

『だつて……』と苦笑した。『取り代へやうと思つても遂ものぐさから、膝やお尻の拔けた着物を着てゐたので、たゞ人が來たといふ事に眞先きに怖氣が來たのが惡いのですわ。』或はそれは僞りではないであらう。けれど、もう今は、少しも辯護にならない事は承認しない譯にはいかなかつた。

この堂々廻りの樣な氣持ちを扱ひすぐねて彼女は眞靑に澄んだ空を見上げてふうと息を吐いた。と垣の若芽をむしつてポンと空に投げた。ポキリと若芽の折れる冴えた鋭い音、ポキリと冴えた鋭い音、その音は火に笑ふ鮮人の姿を、自分の觀念と戰ふ彼女の姿に變轉させる魔曲のやうに思はれて來るのであつた。

編輯室にて

春とは名ばかりの寒い日が、雨が降つた風が吹いたりしてつゞいてゐた。「いつ、咲くことやら」と、遠い心で眺めてゐた櫻の蕾が、そんな間にも春らしく膨れて行つてとう〳〵花になつた。とう〳〵咲いた、と思ふ内にも花はどん〳〵散り初めてそのいゝあつけなさ、ほんとうに夢のやうであつた。

昨日はおひる過ぎ頃から友人を案内して井の頭公園に遊んだのであつたが、もうすつかり初夏の眺めであつた。今頃の葉櫻も全くいゝ。然し、花を見る餘裕（心持の上からの）すらないまゝにやり過してしまつた春が今更のやうに殘り惜しいのである。今年は職業婦人社として、東京及びその近郊にあられる既知未知の友人諸姉を誘ひ出して、一日思ひきり遊ばうと心構へしてゐたことでもあつたから、一層私は心殘りがして仕様がない。

×

職業婦人社としての私たちの仕事をいよ〳〵もつと積極的に進めることにした。悉しくは來月號に書く。職業婦人社は創立六週年を迎へた今日、やつとその第二歩を踏み出すのであるみんな創立の當初からしたいと思つてゐて初めかれてゐたことばかりである。そして、みんな、今の社會事情から押して誰かゞ當然になされねばならないことで未だ誰も手をつけてゐないことばかりである。職業婦人社がよくその仕事をやり遂げてゆくことが出來るやうに、みんな一緒になつて力をかして下さい。

×

今月も雜誌が大さう遲くなつて申わけがない。非常に忙しい仕事におはれてゐたため二十日すぎまで編輯の方に心をむけることさへ出來なかつたのです。

編輯については、あゝもしたい、かうもしたいといつも考へてゐるのだけれども出來ないでしまふ。然し不滿足なものばかり拵へてゐる事にさすがに自分ながら我慢がならなくなりました。來月號からもつと努力していゝものを作りたいと思つてゐます。僞らぬあなたの感想を送つて下さい（む）

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部　貳拾五錢（郵稅五厘）
半年分　壹圓四拾錢
壹年分　貳圓八拾錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和二年四月廿五日納本
昭和二年五月　五日發行

東京市外中野町園三二四四
發行編輯兼印刷者　奥むめお
東京市小石川區西古川町二五
印刷所　中外印刷株式會社
東京市芝區愛宕下町二ノ三
發行所　職業婦人社
振替東京六四一六〇番



大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
昭和二年四月廿八日印刷納本
昭和二年五月五日發行（毎月一回一日發行）

婦人運動

第五卷第五號

（定價二十五錢）

本（第10巻）

円

2 12

12）4433

ます